

## 民数記

第一章 エジプトの国を出た次の年の二月一日に、主はシナイの荒野において、会見の幕屋で、モーセに言われた、「二」あなたがたは、イスラエルの人々の全会衆を、その氏族により、その父祖の家によって調査し、そのすべての男子の名の数を、ひとりびとり数えて、その総数を得なさい。三イスラエルのうちで、すべて戦争に出ることのできる二十歳以上の者を、あなたとアロンとは、その部隊にしたがって数えなければならぬ。四また、すべての部族は、おのおの父祖の家の長たるものを、ひとりずつ出して、あなたがたと協力させなければならぬ。五すなわち、あなたがたと協力すべき人々の名は、次のとおりである。ルベンからはシデウルの子エリツル。六シメオンからはツリシヤダイの子シルミエル。七ユダからはアミナダブの子ナシオン。八イツサカルからはツアルの子ネタニエル。九ゼブルンからはヘロンの子エリアブ。一〇ヨセフの子たちのうち、エフライムからはアミホデの子エリシヤマ、マナセからはバダヅルの子ガマリエル。一一ベニヤミンからはギデオニの子アビダン。一二ダンからはアミシヤダイの子アヒエゼル。一三アセルからはオ克兰の子バギエル。一四ガドからはデウエルの

子エリアサフ。一五ナフタリからはエナンの子アヒラ。一六これらは会衆のうちから選出された人々で、その父祖の部族のつかさたち、またイスラエルの氏族のかしらたちである。

一七こうして、モーセとアロンが、ここに名を掲げた人々を引き連れて、一八二月一日に会衆をことごとく集めたので、彼らはその氏族により、その父祖の家により、その名の数にしたがって二十歳以上のものが、ひとりびとり登録した。一九主が命じられたように、モーセはシナイの荒野で彼らを数えた。

二〇すなわち、イスラエルの長子ルベンの子たちから生れたものを、その氏族により、その父祖の家によって調べ、すべて戦争に出ることのできる二十歳以上の男子の名の数を、ひとりびとり得たが、ミルベンの部族のうちで、数えられたものは四万六千五百人であった。

二一またシメオンの子たちから生れたものを、その氏族により、その父祖の家によって調べ、すべて戦争に出ることのできる二十歳以上の男子の名の数を、ひとりびとり得たが、二二シメオンの部族のうちで、数えられたものは五万九千三百人であった。

二三またガドの子たちから生れたものを、その氏族により、その父祖の家によって調べ、すべて戦争に出ることのできる二十歳以上の者の名の数を得たが、二四ガドの部族のうちで、数えられたものは四万五千六百五十人で

あった。

三六 ユダの子たちから生れたものを、その氏族により、その父祖の家によって調べ、すべて戦争に出ることのできる二十歳以上の者の名の数を得たが、三七 ユダの部族のうちで、数えられたものは七万四千六百人であった。

三八 イッサカルの子たちから生れたものを、その氏族により、その父祖の家によって調べ、すべて戦争に出ることのできる二十歳以上の者の名の数を得たが、三九 イッサカルの部族のうちで、数えられたものは五万四千四百人であった。

四〇 ゼブルンの子たちから生れたものを、その氏族により、その父祖の家によって調べ、すべて戦争に出ることのできる二十歳以上の者の名の数を得たが、四一 ゼブルンの部族のうちで、数えられたものは五万七千四百人であった。

四二 ヨセフの子たちのうち、エフライムの子たちから生れたものを、その氏族により、その父祖の家によって調べ、すべて戦争に出ることのできる二十歳以上の者の名の数を得たが、四三 エフライムの部族のうちで、数えられたものは四万五千人であった。

四四 マナセの子たちから生れたものを、その氏族により、その父祖の家によって調べ、すべて戦争に出ることのできる二十歳以上の者の名の数を得たが、四五 マナセの部族のうちで、数えられたものは三万二千二百人であった。

四六 ベニヤミンの子たちから生れたものを、その氏族により、その父祖の家によって調べ、すべて戦争に出ることのできる二十歳以上の者の名の数を得たが、四七 ベニヤミンの部族のうちで、数えられたものは三万五千四百人であった。

四八 ダンの子たちから生れたものを、その氏族により、その父祖の家によって調べ、すべて戦争に出ることのできる二十歳以上の者の名の数を得たが、四九 ダンの部族のうちで、数えられたものは六万二千七百人であった。

五〇 アセルの子たちから生れたものを、その氏族により、その父祖の家によって調べ、すべて戦争に出ることのできる二十歳以上の者の名の数を得たが、五一 アセルの部族のうちで、数えられたものは四万一千五百人であった。

五二 ナフタリの子たちから生れたものを、その氏族により、その父祖の家によって調べ、すべて戦争に出ることのできる二十歳以上の者の名の数を得たが、五三 ナフタリの部族のうちで、数えられたものは五万三千四百人であった。

五四 これらが数えられた人々であつて、モーセとアロンとイスラエルのつかさたちとが数えた人々である。そのつかさたちは十二人であつて、おのおのその父祖の家のために出たものである。五五 そしてイスラエルの人々のうち、その父祖の家にしたがって数えられた者は、すべてイスラエルのうち、戦争に出ることのできる二十歳以上

の者であつて、<sup>四六</sup>その数えられた者は合わせて六十万三千五百五十人であつた。

<sup>四七</sup>しかし、レビびとは、その父祖の部族にしたがつて、そのうちに数えられなかつた。<sup>四八</sup>すなわち、主はモーセに言われた、<sup>四九</sup>「あなたはレビの部族だけは数えてはならない。またその総数をイスラエルの人々のうちに数えあげてはならない。<sup>五〇</sup>あなたはレビびとに、あかしの幕屋と、そのもろもろの器と、それに附属するもろもろの物を管理させなさい。彼らは幕屋と、そのもろもろの器とを持ち運び、またそこで務をし、幕屋のまわりに宿営しなければならぬ。<sup>五一</sup>幕屋が進む時は、レビびとがこれを取りくずし、幕屋を張る時は、レビびとがこれを組み立てなければならぬ。ほかの人がこれに近づく時は殺されるであらう。<sup>五二</sup>イスラエルの人々はその部隊にしたがつて、おのおのその宿営に、おのおのその旗のもとにその天幕を張らなければならぬ。<sup>五三</sup>しかし、レビびとは、あかしの幕屋のまわりに宿営しなければならぬ。そうすれば、主の怒りはイスラエルの人々の会衆の上に臨むことがないであらう。レビびとは、あかしの幕屋の務を守らなければならぬ」。<sup>五四</sup>イスラエルの人々はこ

のようにして、すべて主がモーセに命じられたように行つた。

## 第二章

「主はモーセとアロンに言われた、<sup>一</sup>イスラエルの人々は、おのおのその部隊の旗のもとに、

その父祖の家の旗印にしたがつて宿営しなければならぬ。また会見の幕屋のまわりに、それに向かつて宿営しなければならぬ。<sup>三</sup>すなわち、日の出る方、東に宿営するものは、ユダの宿営の旗につく者であつて、その部隊にしたがつて宿営し、アミナダブの子ナシオンが、ユダの子たちのつかさとなるであらう。<sup>四</sup>その部隊、すなわち、数えられた者は七万四千六百人である。<sup>五</sup>そのかたわらに宿営する者はイッサカルの子エリツルの子ネタニエルが、イッサカルの子たちのつかさとなるであらう。<sup>六</sup>その部隊、すなわち、数えられた者は五万四千四百人である。<sup>七</sup>次はゼブルンの部族で、ヘロンの子エリアブが、ゼブルンの子たちのつかさとなるであらう。<sup>八</sup>その部隊、すなわち、数えられた者は五万七千四百人である。<sup>九</sup>ユダの宿営の、その部隊にしたがつて数えられた者は、合わせて十八万六千四百人である。これらの者は、まづ先に進まなければならぬ。

<sup>一〇</sup>南の方では、ルベンの宿営の旗につく者が、その部隊にしたがつており、シデウルの子エリツルが、ルベンの子たちのつかさとなるであらう。<sup>二</sup>その部隊、すなわち、数えられた者は四万六千五百人である。<sup>三</sup>そのかたわらに宿営する者はシメオンの部族で、ツリシャダイの子シルミエルが、シメオンの子たちのつかさとなるであらう。<sup>四</sup>その部隊、すなわち、数えられた者は五万九千三百人である。<sup>五</sup>次はガドの部族で、デウエルの子エリ



アサフが、ガドの子たちのつかさとなるであろう。一五その部隊、すなわち、数えられた者は四万五千六百五十人である。一六ルベンの宿営の、その部隊にしたがって数えられた者は、合わせて十五万一千四百五十人である。これらの者は二番目に進まなければならぬ。

一七その次に会見の幕屋を、レビびとの宿営とともに、もろもろの宿営の中央にして進まなければならぬ。彼らは宿営するのと同じように、おのおのその位置で、その旗にしたがって進まなければならない。

一八西の方では、エフライムの宿営の旗につく者が、その部隊にしたがっており、アミホデの子エリシヤマが、エフライムの子たちのつかさとなるであろう。一九その部隊、すなわち、数えられた者は四万五百人である。二〇そのかたわらにマナセの部族がおって、バダヅルの子ガマリエルが、マナセの子たちのつかさとなるであろう。二一その部隊、すなわち、数えられた者は三万二千二百人である。二二次にベニヤミンの部族がおって、ギデオニの子アビダンが、ベニヤミンの子たちのつかさとなるであろう。二三その部隊、すなわち、数えられた者は三万五千四百人である。二四エフライムの宿営の、その部隊にしたがって数えられた者は、合わせて十万八千百人である。これらの者は三番目に進まなければならぬ。

二五北の方では、ダンの宿営の旗につく者が、その部隊にしたがっており、アミシヤダイの子アヒエゼルが、ダ

ンの子たちのつかさとなるであろう。二六その部隊、すなわち、数えられた者は六万二千七百人である。二七そのかたわらに宿営する者は、アセルの部族であつて、オクラの子パギエルが、アセルの子たちのつかさとなるであろう。二八その部隊、すなわち、数えられた者は四万一千五百人である。二九次にナフタリの部族がおって、エナンの子アヒラが、ナフタリの子たちのつかさとなるであろう。三〇その部隊、すなわち、数えられた者は五万三千四百人である。三ダンの宿営の、数えられた者は合わせて十五万七千六百人である。これらの者はその旗にしたがって、最後に進まなければならない。

三三これがイスラエルの人々の、その父祖の家にしたがって数えられた人々である。もろもろの宿営の、その部隊にしたがって数えられた者は合わせて六十万三千五百五十人であつた。三しかし、レビびとはイスラエルの人々のうちに数えられなかった。主がモーセに命じられたとおりでである。

三四イスラエルの人々は、すべて主がモーセに命じられたとおりに行い、その旗にしたがって宿営し、おのおのその氏族に従い、その父祖の家に従つて進んだ。

第三章 一主がシナイ山で、モーセと語られた

時の、アロンとモーセの一族は、次のとおりであつた。二アロンの子たちの名は、次のとおりである。長子はナダブ、次はアビウ、エレアザル、イタマル。三これがアロ



ンの子たちの名であつて、彼らはみな油を注がれ、祭司の職に任じられて祭司となつた。四 ナダブとアビウとは、シナイの荒野において、異火を主の前にささげたので、主の前で死んだ。彼らには子供がなかつた。そしてエレアザルとイタマルとが、父アロンの前で祭司の務をした。

五 主はまたモーセに言われた、六 レビの部族を召し寄せ、祭司アロンの前に立つて仕えさせなさい。七 彼らは会見の幕屋の前にあつて、アロンと全会衆のために、その務をし、幕屋の働きをしなければならない。八 すなわち、彼らは会見の幕屋の、すべての器をまもり、イスラエルの人々のために務をし、幕屋の働きをしなければならない。九 あなたはレビびとを、アロンとその子たちとに、与えなければならない。彼らはイスラエルの人々のうちから、全くアロンに与えられたものである。一〇 あなたはアロンとその子たちを立てて、祭司の職を守らせなければならない。ほかの人で近づくものは殺されるであらう。

二 主はまたモーセに言われた、三 わたしは、イスラエルの人々のうちの初めに生れたすべてのういごの代りに、レビびとをイスラエルの人々のうちから取るであらう。レビびとは、わたしのものとなるであらう。四 ういごはすべてわたしのものだからである。わたしは、エジプトの国において、すべてのういごを撃ち殺した日に、イスラエルのういごを、人も獣も、ことごとく聖別して、

わたしに帰せしめた。彼らはわたしのものとなるであらう。わたしは主である。

四 主はまたシナイの荒野でモーセに言われた、五 あなたはレビの子たちを、その父祖の家により、その氏族によつて数えなさい。すなわち、一か月以上の男子を数えなければならない。六 それでモーセは主の言葉にしたがつて、命じられたとおりに、それを数えた。七 レビの子たちの名は次のとおりである。すなわち、ゲルシオン、コハテ、メラリ。八 ゲルシヨンの子たちの名は、その氏族によれば次のとおりである。すなわち、リブニ、シメイ。九 コハテの子たちは、その氏族によれば、アムラム、イツハル、ヘブロン、ウジエル。一〇 メラリの子たちは、その氏族によれば、マヘリ、ムシ。これらはその父祖の家によるレビの氏族である。

二 ゲルシオンからリブニびとの氏族と、シメイびとの氏族とが出た。これらはゲルシヨンびとの氏族である。三 その数えられた者、すなわち、一か月以上の男子の数は合せて七千五百人であつた。四 ゲルシヨンびとの氏族は幕屋の後方、すなわち、西の方に宿営し、五 ラエルの子エリアサフが、ゲルシヨンびとの父祖の家のつかさとなるであらう。六 会見の幕屋の、ゲルシヨンの子たちの務は、幕屋、天幕とのおおい、会見の幕屋の入口のとばり、七 庭のあげばり、幕屋と祭壇のまわりの庭の入口のとばり、そのひも、およびすべてそれに用いる物を

守ることである。

二七また、コハテからアムラムびとの氏族、イツハルびとの氏族、ヘブロンびとの氏族、ウジエルびとの氏族が出た。これらはコハテびとの氏族である。二八一か月以上の男子の数は、合わせて八千六百人であつて、聖所の務を守る者たちである。二九コハテの子たちの氏族は、幕屋の南の方に宿営し、三〇ウジエルの子エリザパンが、コハテびとの氏族の父祖の家のつかさとなるであらう。三一彼らの務は、契約の箱、机、燭台、二つの祭壇、聖所の務に用いる器、とばり、およびすべてそれに用いる物を守ることである。三二祭司アロンの子エレアザルが、レビびとのつかさたちの長となり、聖所の務を守るものたちを監督するであらう。

三三メラリからマヘリびとの氏族と、ムシびとの氏族とが出た。これらはメラリの氏族である。三四その数えられた者、すなわち、一か月以上の男子の数は、合わせて六千二百人であつた。三五アビハイルの子ツリエルが、メラリの氏族の父祖の家のつかさとなるであらう。彼らは幕屋の北の方に宿営しなければならぬ。三六メラリの子たちが、その務として管理すべきものは、幕屋の枠、その横木、その柱、その座、そのすべての器、およびそれに用いるすべての物、三七ならびに庭のまわりの柱とその座、その釘、およびそのひもである。

三八また幕屋の前、その東の方、すなわち、会見の幕屋

の東の方に宿営する者は、モーセとアロン、およびアロンの子たちであつて、イスラエルの人々の務に代つて、聖所の務を守るものである。ほかの人で近づく者は殺されるであらう。三九モーセとアロンとが、主の言葉にしたがつて数えたレビびとで、その氏族によって数えられた者、一か月以上の男子は、合わせて二万二千人であつた。

四〇主はまたモーセに言われた、「あなたは、イスラエルの人々のうち、すべてういごである男子の一か月以上のものを数えて、その名の数を調べなさい。四一また主なるわたしのために、イスラエルの人々のうちの、すべてのういごの代りにレビびとを取り、またイスラエルの人々の家畜のうちの、すべてのういごの代りに、レビびとの家畜を取りなさい。四二そこでモーセは主の命じられたように、イスラエルの人々のうちの、すべてのういごを数えた。四三その数えられたういごの男子、すべて一か月以上の者は、その名の数によると二万二千二百七十三人であつた。

四四主はモーセに言われた、四五「あなたはイスラエルの人々のうちの、すべてのういごの代りに、レビびとを取り、また彼らの家畜の代りに、レビびとの家畜を取りなさい。レビびとはわたしのものとなる。わたしは主である。四六またイスラエルの人々のういごは、レビびとの数を二百七十三人超過しているから、そのあがないのため、四七そのあたまかすによって、ひとりごとに銀五シケ

ルを取らなければならない。すなわち、聖所のシケルにしたがつて、それを取らなければならない。一シケルは二十ゲラである。四八あなたは、その超過した者をあがなう金を、アロンと、その子たちに渡さなければならぬ。四九そこでモーセは、レビびとによってあがなわれた者を超過した人々から、あがないの金を取った。五〇すなわち、モーセは、イスラエルの人々のういごから、聖所のシケルにしたがつて千三百六十五シケルの銀を取り、五二そのあがないの金を、主の言葉にしたがつて、アロンとその子たちに渡した。主がモーセに命じられたとおりである。

#### 第四章 一主はまたモーセとアロンに言われた、

三レビの子たちのうちから、コハテの子たちの総数を、その氏族により、その父祖の家にしたがつて調べ、三三歳以上五十歳以下で、務につき、会見の幕屋で働くことのできる者を、ことごとく数えなさい。四コハテの子たちの、会見の幕屋の務は、いと聖なる物にかかわるものであつて、次のとおりである。五すなわち、宿営の進む時に、アロンとその子たちとは、まず、はいつて、隔ての垂幕を取りおろし、それをもつて、あかしの箱をおおい、六その上に、じゅごんの皮のおおいを施し、またその上に総青色の布をうちかけ、環にさおをさし入れる。七また供えのパンの机の上には、青色の布をうちかけ、その上に、さら、乳香を盛る杯、鉢、および灌祭の瓶を

並べ、また絶やさず供えるパンを置き、八緋色の布をその上にうちかけ、じゅごんの皮のおおいをもつて、これをおおい、さおをさし入れる。九また青色の布を取つて、燭台とそのともし火ざら、芯切りばさみ、芯取りざら、およびそれに用いるもろもろの油の器をおおい、一〇じゅごんの皮のおおいのうちに、燭台とそのもろもろの器をいれて、担架に載せる。二また、金の祭壇の上に青色の布をうちかけ、じゅごんの皮のおおいで、これをおおい、そのさおをさし入れる。三また聖所の務に用いる務の器をみな取り、青色の布に包み、じゅごんの皮のおおいで、これをおおつて、担架に載せる。四また祭壇の灰を取り去つて、紫の布をその祭壇の上にうちかけ、五その上に、務をするのに用いるもろもろの器、すなわち、火ざら、肉さし、十能、鉢、および祭壇のすべての器を載せ、またその上に、じゅごんの皮のおおいをうちかけ、そしてさおをさし入れる。六宿営の進むとき、アロンとその子たちとが、聖所と聖所のすべての器をおおうことを終つたならば、その後コハテの子たちは、それを運ぶために、はいつてこなければならぬ。しかし、彼らは聖なる物に触れてはならない。触れると死ぬであらう。会見の幕屋のうちの、これらの物は、コハテの子たちが運ぶものである。

一六祭司アロンの子エレアザルは、ともし油、香ばしい薫香、絶やさず供える素祭および注ぎ油をつかさどり、



また幕屋の全体と、そのうちにあるすべての聖なる物、およびその所のもろもろの器をつかさどらなければならぬ。

主はまた、モーセとアロンに言われた、「<sup>一八</sup>あなたはコハテびとの一族を、レビびとのうちから絶えさせてはならない。<sup>一九</sup>彼らがいと聖なる物に近づく時、死なないで、命を保つために、このようにしなさい。すなわち、アロンとその子たちが、まず、はいり、彼らをおのおのその働きにつかせ、そのになうべきものを取らせなさい。<sup>二〇</sup>しかし、彼らは、はいって、ひと目でも聖なる物を見てはならない。見るならば死ぬであらう。」

主はまたモーセに言われた、「<sup>二一</sup>あなたはまたゲルシヨンの子たちの総数を、その父祖の家により、その氏族にしたがって調べ、<sup>二三</sup>三十歳以上五十歳以下で、務につき、会見の幕屋で働くことのできる者を、ことごとく数えなさい。<sup>二四</sup>ゲルシヨンびとの氏族の務として働くことと、運ぶ物とは次のとおりである。<sup>二五</sup>すなわち、彼らは幕屋の幕、会見の幕屋およびそのおおいと、その上のじゅごんの皮のおおい、ならびに会見の幕屋の入口のとばりを運び、<sup>二六</sup>また庭のあげばり、および幕屋と祭壇のまわりの庭の門の入口のとばりと、そのひも、ならびにそれに用いるすべての器を運ばなければならない。そして彼らはすべてこれらのものについての働きをしなければならぬ。<sup>二七</sup>ゲルシヨンびとの子たちのすべての務、

すなわち、その運ぶことと、働くこととは、すべてアロンとその子たちの命に従わなければならない。あなたがたは彼らにすべてその運ぶべき物を定めて、これを守らせなければならない。<sup>二八</sup>これはすなわちゲルシヨンびとの子たちの氏族が、会見の幕屋でする働きであって、彼らの務は祭司アロンの子イタマルの指揮のもとにおかなければならない。

<sup>二九</sup>メラリの子たちをもまたあなたはその氏族により、その父祖の家にしたがって調べ、<sup>三〇</sup>三十歳以上五十歳以下で、務につき、会見の幕屋の働きをすることのできる者を、ことごとく数えなさい。<sup>三一</sup>彼らが会見の幕屋でするすべての務にしたがって、その運ぶ責任のある物は次のとおりである。すなわち、幕屋の柱、その横木、その柱、その座、<sup>三二</sup>庭のまわりの柱、その座、その釘、そのひも、またそのすべての器、およびそれに用いるすべてのものである。あなたがたは彼らが運ぶ責任のある器を、その名によって割り当てなければならない。<sup>三三</sup>これはすなわちメラリの子たちの氏族の働きであって、彼らは祭司アロンの子イタマルの指揮のもとに、会見の幕屋で、このすべての働きをしなければならない。」

そこでモーセとアロン、および会衆のつかさたちは、コハテの子たちをその氏族により、その父祖の家にしたがって調べ、<sup>三五</sup>三十歳以上五十歳以下で、務につき、会見の幕屋で働くことのできる者を、ことごとく数えたが、

三六 その氏族にしたがつて数えられた者は二千七百五十人であつた。三七 これはすなわち、コハテびとの氏族の数えられた者で、すべて会見の幕屋で働くことのできる者であつた。モーセとアロンが、主のモーセによって命じられたところにしたがつて数えたのである。

三八 またゲルシヨンの子たちを、その氏族により、その父祖の家にしたがつて調べ、三九 三十歳以上五十歳以下で、務につき、会見の幕屋で働くことのできる者を、ことごとく数えたが、四〇 その氏族により、その父祖の家にしたがつて数えられた者は二千六百三十人であつた。四一 これはすなわち、ゲルシヨンの子たちの氏族の数えられた者で、すべて会見の幕屋で働くことのできる者であつた。モーセとアロンが、主の命にしたがつて数えたのである。

四二 またメラリの子たちの氏族を、その氏族により、その父祖の家にしたがつて調べ、四三 三十歳以上五十歳以下で、務につき、会見の幕屋で働くことのできる者を、ことごとく数えたが、四四 その氏族にしたがつて数えられた者は三千二百人であつた。四五 これはすなわち、メラリの子たちの氏族の数えられた者で、モーセとアロンが、主のモーセによって命じられたところにしたがつて数えたのである。

四六 モーセとアロン、およびイスラエルのつかさたちは、レビびとを、その氏族により、その父祖の家にしたがつて調べ、四七 三十歳以上五十歳以下で、会見の幕屋にはい

て務の働きをし、また、運ぶ働きをする者を、ことごとく数えたが、四八 その数えられた者は八千五百八十人であつた。四九 彼らは主の命により、モーセによって任じられ、おのおのその働きにつき、かつその運ぶところを受け持った。こうして彼らは主のモーセに命じられたように数えられたのである。

第五章 一 主はまたモーセに言われた、二「イスラエルの人々に命じて、らい病人、流出のある者、死体にふれて汚れた者を、ことごとく宿営の外に出させなさい。三 男でも女でも、あなたがたは彼らを宿営の外に出してそこにおらせ、彼らに宿営を汚させてはならない。わたしは、その中に住んでいるからである。四 イスラエルの人々はそのようにして、彼らを宿営の外に出した。すなわち、主がモーセに言われたようにイスラエルの人々は行つた。

五 主はまたモーセに言われた、六「イスラエルの人々に告げなさい、『男または女が、もし人の犯す罪をおかし、主に罪を得、その人がとがある者となる時は、七 その犯した罪を告白し、その物の価にその五分の一を加えて、彼がとがを犯した相手方に渡し、そのとがをことごとく償わなければならない。八 しかし、もし、そのとがの償いを受け取るべき親族も、その人になく時は、主にそのとがの償いをして、これを祭司に帰せしめなければならぬ。九 なお、このほか、そのあがないをするために用い

た贖罪の雄羊も、祭司に帰せしめなければならぬ。  
 九イスラエルの人々が、祭司のもとに携えて来るすべての聖なるささげ物は、みな祭司に帰せしめなければならぬ。一〇すべて人の聖なるささげ物は祭司に帰し、すべて人が祭司に与える物は祭司に帰するであらう。』

一主はまたモーセに言われた、一二「イスラエルの人々に告げなさい、『もし人の妻たる者が、道ならぬ事をして、その夫に罪を犯し、一三人が彼女と寝たのに、その事が夫の目に隠れて現れず、彼女はその身を汚したけれども、それに対する証人もなく、彼女もまたその時に捕えられなかった場合、一四すなわち、妻が身を汚したために、夫が疑いの心を起して妻を疑うことがあり、または妻が身を汚した事が無いのに、夫が疑いの心を起して妻を疑うことがあれば、一五夫は妻を祭司のもとに伴い、彼女のために大麦の粉一エバの十分の一を供え物として携えてこなければならぬ。ただし、その上に油を注いではならない。また乳香を加えてはならない。これは疑いの供え物、覚えの供え物であって罪を覚えさせるものだからである。』  
 一六祭司はその女を近く進ませ、主の前に立たせなければならぬ。一七祭司はまた土の器に聖なる水を入れ、幕屋のゆかのちりを取ってその水に入れ、一八その女を主の前に立たせ、女にその髪の毛をほどかせ、覚えの供え物すなわち、疑いの供え物を、その手に持たせなければならぬ。』

らない。そして祭司は、のろいの苦い水を手に取り、一九女に誓わせて、これに言わなければならぬ、『もし人があなたと寝たことがなく、またあなたが、夫のもとにあつて、道ならぬ事をして汚れたことがなければ、のろいの苦い水も、あなたに害を与えないであらう。二〇しかし、あなたが、もし夫のもとにあつて、道ならぬことをして身を汚し、あなたの夫でない人が、あなたと寝たことがあつたならば、一三祭司はその女に、のろいの誓いをもつて誓わせ、その女に言わなければならぬ。——主はあなたのももをやせさせ、あなたの腹をふくれさせて、あなたを民のうちの、のろいとし、また、ののしりとされるように。二三また、のろいの水が、あなたの腹にはいつてあなたの腹をふくれさせ、あなたのももをやせさせるように。』その時、女は「アアメン、アアメン」と言わなければならぬ。

二三祭司は、こののろいを書き物に書きしるし、それを苦い水に洗い落とし、二四女にそののろいの水を飲ませなければならぬ。そののろいの水は彼女のうちにはいつて苦くなるであらう。二五そして祭司はその女の手から疑いの供え物を取り、その供え物を主の前に揺り動かして、それを祭壇に持ってこなければならぬ。二六祭司はその供え物のうちから、覚えの分、一握りを取って、それを祭壇で焼き、その後、女にその水を飲ませなければならぬ。二七その水を女に飲ませる時、もしその女が身を汚



し、夫に罪を犯した事があれば、そののろいの水は女のうちにいつて苦くなり、その腹はふくれ、ももはやせて、その女は民のうちののろいとなるであろう。二八しかし、もし女が身を汚した事がなく、清いならば、害を受けないで、子を産むことができるであろう。

二九これは疑いのある時のおきてである。妻たる者が夫のもとにあつて、道ならぬ事をして身を汚した時、三〇または夫たる者が疑いの心を起して、妻を疑う時、彼はその女を主の前に立たせ、祭司はこのおきてを、ことごとく彼女に行わなければならぬ。三〇こうするならば、夫は罪がなく、妻は罪を負うであろう。』

第六章 一主はまたモーセに言われた、三イスラエルの人々に言いなさい、『男または女が、特に誓いを立て、ナジルびとなる誓願をして、身を主に聖別する時は、三ぶどう酒と濃い酒を断ち、ぶどう酒の酢となつたもの、濃い酒の酢となつたものを飲まず、また、ぶどうの汁を飲まず、また生でも干したもののでも、ぶどうを食べてはならない。四ナジルびとである間は、すべて、ぶどうの木からできるものは、種も皮も食べてはならない。五また、ナジルびとたる誓願を立てている間は、すべて、かみそりを頭に当ててはならない。身を主に聖別した日数の満ちるまで、彼は聖なるものであるから、髪の毛をのばしておかなければならない。六身を主に聖別している間は、すべて死体に近づいて

はならない。七父母、兄弟、姉妹が死んだ時でも、そのために身を汚してはならない。神に聖別したしるしが、頭にあるからである。八彼はナジルびとである間は、すべて主の聖なる者である。

九もし人がはからずも彼のかたわらに死んで、彼の聖別した頭を汚したならば、彼は身を清める日に、頭をそらなければならぬ。一〇そして八日目に山ばと二羽、または家ばとのひな二羽を携えて、会見の幕屋の入口におる祭司の所に行かなければならない。二祭司はその一羽を罪祭に、一羽を燔祭にささげて、彼が死体によつて得た罪を彼のためにあがない、その日に彼の頭を聖別しなければならぬ。三彼はまたナジルびとたる日の数を、改めて主に聖別し、一歳の雄の小羊を携えてきて、愆祭としなければならぬ。それ以前の日は、彼がその聖別を汚したので、無効になるであろう。

三これがナジルびとの律法である。聖別の日数が満ちた時は、その人を会見の幕屋の入口に連れてこなければならぬ。四そしてその人は供え物を主にささげなければならぬ。すなわち、一歳の雄の小羊の全きもの一頭を燔祭とし、一歳の雌の小羊の全きもの一頭を罪祭とし、雄羊の全きもの一頭を酬恩祭とし、二五また種入れぬパンの一角、油を混ぜて作った麦粉の菓子、油を塗った種入れぬ煎餅、および素祭と灌祭を携えてこなければなら

ない。一六祭司はこれを主の前に携えてきて、その罪祭と燔祭とをささげ、一七また雄羊を種入れぬパンのいかごと共に、酬恩祭の犠牲として、主にささげなければならぬ。祭司はまたその素祭と灌祭をもささげなければならぬ。一八そのナジルびとは会見の幕屋の入口で、聖別した頭をそり、その聖別した頭の髪を取って、これを酬恩祭の犠牲の下にある火の上に置かなければならぬ。一九祭司はその雄羊の肩の煮えたものと、かごから取った種入れぬ菓子一つと、種入れぬ煎餅一つを取って、これをナジルびとが、その聖別した頭をそった後、その手に授け、二〇祭司は主の前でこれを揺り動かして揺祭としなければならぬ。これは聖なる物であって、その揺り動かした胸と、ささげたものと共に、祭司に帰するであらう。こうして後、そのナジルびとは、ぶどう酒を飲むことができる。

二これは誓願をするナジルびとと、そのナジルびとたる事のために、主にささげる彼の供え物についての律法である。このほかにその力の及ぶ物をささげることができる。すなわち、彼はその誓う誓願のように、ナジルびとの律法にしたがって行わなければならない。

三主はまたモーセに言われた、二二「アロンとその子たちに言いなさい、『あなたがたはイスラエルの人々を祝福してこのように言わなければならない。』」

二四「願わくは主があなたを祝福し、

入 あなたを守られるように。  
二五 願わくは主がみ顔をもってあなたを照し、  
二六 願わくは主がみ顔をあなたに向け、  
二七 こうして彼らがイスラエルの人々のために、わたしの名を唱えるならば、わたしは彼らを祝福するであらう。

第七章 モーセが幕屋を建て終り、これに油

を注いで聖別し、またそのすべての器、およびその祭壇と、そのすべての器に油を注いで、これを聖別した日に、イスラエルのつかさたち、すなわち、その父祖の家の長たちは、ささげ物をした。彼らは各部族のつかさたちであって、その数えられた人々をつかさどる者どもであつた。三彼らはその供え物を、主の前に携えてきたが、おおいのある車六両と雄牛十二頭であつた。つかさふたりに車一両、ひとりに雄牛一頭である。彼らはこれを幕屋の前に引いてきた。四その時、主はモーセに言われた、五「あなたはこれを見会の幕屋の務に用いるために、彼らから受け取って、レビびとに、おのおのその務にしたがって、渡さなければならぬ」。六そこでモーセはその車と雄牛を受け取って、これをレビびとに渡した。七すなわち、ゲルシヨンの子たちには、その務にしたがって、車二両と雄牛四頭を渡し、ハメラリの子たちには、その務にした

がって車四両と雄牛八頭を渡し、祭司アロンの子イタマルに、これを監督させた。九しかし、コハテの子たちには、何をも渡さなかった。彼らの務は聖なる物を、肩になつて運ぶことであつたからである。一〇つかさたちは、また祭壇に油を注ぐ日に、祭壇奉納の供え物を携えてきて、その供え物を祭壇の前にささげた。二主はモーセに言われた、「つかさたちは一日にひとりずつ、祭壇奉納の供え物をささげなければならぬ」。

三第一日に供え物をささげた者は、ユダの部族のアミナダブの子ナシオンであつた。四その供え物は銀のさうら一つ、その重さは百三十シケル、銀の鉢一つ、これは七十シケル、共に聖所のシケルによる。この二つには素祭に使う油を混ぜた麦粉を満たしていた。五また十シケルの金の杯一つ。これには薫香を満たしていた。六また燔祭に使う若い雄牛一頭、雄羊一頭、一歳の雄の小羊一頭。七罪祭に使う雄やぎ一頭。八酬恩祭の犠牲に使う雄牛二頭、雄羊五頭、雄やぎ五頭、一歳の雄の小羊五頭であつて、これはアミナダブの子ナシオンの供え物であつた。

九第二日にはイッサカルの子ナシオンの供え物であつた。一〇エルがささげ物をした。一一そのささげた供え物は銀のさうら一つ、その重さは百三十シケル、銀の鉢一つ、これは七十シケル、共に聖所のシケルによる。この二つには素祭に使う油を混ぜた麦粉を満たしていた。一二また十シケルの金の杯一つ、これには薫香を満たしていた。一三また

燔祭に使う若い雄牛一頭、雄羊一頭、一歳の雄の小羊一頭。二罪祭に使う雄やぎ一頭。三酬恩祭の犠牲に使う雄牛二頭、雄羊五頭、雄やぎ五頭、一歳の雄の小羊五頭であつて、これはツアルの子ネタニエルの供え物であつた。

四第三日にはゼブルンの子たちのつかさ、ヘロンの子エリアブ。五その供え物は銀のさうら一つ、その重さは百三十シケル、銀の鉢一つ、これは七十シケル、共に聖所のシケルによる。この二つには素祭に使う油を混ぜた麦粉を満たしていた。六また十シケルの金の杯一つ、これには薫香を満たしていた。七また燔祭に使う若い雄牛一頭、雄羊一頭、一歳の雄の小羊一頭。八罪祭に使う雄やぎ一頭。九酬恩祭の犠牲に使う雄牛二頭、雄羊五頭、雄やぎ五頭、一歳の雄の小羊五頭であつて、これはヘロンの子エリアブの供え物であつた。

一〇第四日にはルベンの子たちのつかさ、シデウルの子エリヅル。一一その供え物は銀のさうら一つ、その重さは百三十シケル、銀の鉢一つ、これは七十シケル、共に聖所のシケルによる。この二つには素祭に使う油を混ぜた麦粉を満たしていた。一二また十シケルの金の杯一つ、これには薫香を満たしていた。一三また燔祭に使う若い雄牛一頭、雄羊一頭、一歳の雄の小羊一頭。一四罪祭に使う雄やぎ一頭。一五酬恩祭の犠牲に使う雄牛二頭、雄羊五頭、雄やぎ五頭、一歳の雄の小羊五頭であつて、これはシデウルの子エリヅルの供え物であつた。



第五日にはシメオンの子たちのつかさ、ツリシャダイの子シルミエル。その供え物は銀のさら一つ、その重さは百三十シケル、銀の鉢一つ、これは七十シケル、共に聖所のシケルによる。この二つには素祭に使う油を混ぜた麦粉を満たしていた。また十シケルの金の杯一つ、これには薫香を満たしていた。また燔祭に使う若い雄牛一頭、雄羊一頭、一歳の雄の小羊一頭。罪祭に使う雄やぎ一頭。酬恩祭の犠牲に使う雄牛二頭、雄羊五頭、雄やぎ五頭、一歳の雄の小羊五頭であって、これはデウエルの子エリアサフの供え物であつた。

第六日にはガドの子たちのつかさ、デウエルの子エリアサフ。その供え物は銀のさら一つ、その重さは百三十シケル、銀の鉢一つ、これは七十シケル、共に聖所のシケルによる。この二つには素祭に使う油を混ぜた麦粉を満たしていた。また十シケルの金の杯一つ、これには薫香を満たしていた。また燔祭に使う若い雄牛一頭、雄羊一頭、一歳の雄の小羊一頭。罪祭に使う雄やぎ一頭。酬恩祭の犠牲に使う雄牛二頭、雄羊五頭、雄やぎ五頭、一歳の雄の小羊五頭であって、これはデウエルの子エリアサフの供え物であつた。

第七日にはエフライムの子たちのつかさ、アミホデの子エリシャマ。その供え物は銀のさら一つ、その重さは百三十シケル、銀の鉢一つ、これは七十シケル、共に聖所のシケルによる。この二つには素祭に使う油を混

ぜた麦粉を満たしていた。また十シケルの金の杯一つ、これには薫香を満たしていた。また燔祭に使う若い雄牛一頭、雄羊一頭、一歳の雄の小羊一頭。罪祭に使う雄やぎ一頭。酬恩祭の犠牲に使う雄牛二頭、雄羊五頭、雄やぎ五頭、一歳の雄の小羊五頭であって、これはアミホデの子エリシャマの供え物であつた。

第八日にはマナセの子たちのつかさ、バダヅルの子ガマリエル。その供え物は銀のさら一つ、その重さは百三十シケル、銀の鉢一つ、これは七十シケル、共に聖所のシケルによる。この二つには素祭に使う油を混ぜた麦粉を満たしていた。また十シケルの金の杯一つ、これには薫香を満たしていた。また燔祭に使う若い雄牛一頭、雄羊一頭、一歳の雄の小羊一頭。罪祭に使う雄やぎ一頭。酬恩祭の犠牲に使う雄牛二頭、雄羊五頭、雄やぎ五頭、一歳の雄の小羊五頭であって、これはバダヅルの子ガマリエルの供え物であつた。

第九日にはベニヤミンの子たちのつかさ、ギデオンの子アビダン。その供え物は銀のさら一つ、その重さは百三十シケル、銀の鉢一つ、これは七十シケル、共に聖所のシケルによる。この二つには素祭に使う油を混ぜた麦粉を満たしていた。また十シケルの金の杯一つ、これには薫香を満たしていた。また燔祭に使う若い雄牛一頭、雄羊一頭、一歳の雄の小羊一頭。罪祭に使う雄やぎ一頭。酬恩祭の犠牲に使う雄牛二頭、雄羊五頭、

雄やぎ五頭、一歳の雄の小羊五頭であつて、これはギデオニの子アビダンの供え物であつた。

第十日にはダンの子たちのつかさ、アミシャダイの子アヒエゼル。その供え物は銀のさし一つ、その重さは百三十シケル、銀の鉢一つ、これは七十シケル、共に聖所のシケルによる。この二つには素祭に使う油を混ぜた麦粉を満たしていた。また十シケルの金の杯一つ、これには薫香を満たしていた。また燔祭に使う若い雄牛一頭、雄羊一頭、一歳の雄の小羊一頭。罪祭に使う雄やぎ一頭。酬恩祭の犠牲に使う雄牛二頭、雄羊五頭、雄やぎ五頭、一歳の雄の小羊五頭であつて、これはアミシャダイの子アヒエゼルの供え物であつた。

第十一日にはアセルの子たちのつかさ、オクランの子パギエル。その供え物は銀のさし一つ、その重さは百三十シケル、銀の鉢一つ、これは七十シケル、共に聖所のシケルによる。この二つには素祭に使う油を混ぜた麦粉を満たしていた。また十シケルの金の杯一つ、これには薫香を満たしていた。また燔祭に使う若い雄牛一頭、雄羊一頭、一歳の雄の小羊一頭。罪祭に使う雄やぎ一頭。酬恩祭の犠牲に使う雄牛二頭、雄羊五頭、雄やぎ五頭、一歳の雄の小羊五頭であつて、これはオクランの子パギエルの供え物であつた。

第十二日にはナフタリの子たちのつかさ、エナンの子アヒラ。その供え物は銀のさし一つ、その重さは百

三十シケル、銀の鉢一つ、これは七十シケル、共に聖所のシケルによる。この二つには素祭に使う油を混ぜた麦粉を満たしていた。また十シケルの金の杯一つ、これには薫香を満たしていた。また燔祭に使う若い雄牛一頭、雄羊一頭、一歳の雄の小羊一頭。罪祭に使う雄やぎ一頭。酬恩祭の犠牲に使う雄牛二頭、雄羊五頭、雄やぎ五頭、一歳の雄の小羊五頭であつて、これはエナンの子アヒラの供え物であつた。

以上は祭壇に油を注ぐ日に、イスラエルのつかさたち、祭壇を奉納する供え物として、ささげたものである。すなわち、銀のさし十二、銀の鉢十二、金の杯十二。銀のさしはそれぞれ百三十シケル、鉢はそれぞれ七十シケル、聖所のシケルによれば、この銀の器は合わせて二千四百シケル。また薫香の満ちている十二の金の杯は、聖所のシケルによれば、それぞれ十シケル、その杯の金は合わせて百二十シケルであつた。また燔祭に使う雄牛は合わせて十二、雄羊は十二、一歳の雄の小羊は十二、このほかにその素祭のものがあつた。また罪祭に使う雄やぎは十二。酬恩祭の犠牲に使う雄牛は合わせて二十四、雄羊は六十、雄やぎは六十、一歳の雄の小羊は六十であつて、これは祭壇に油を注いだ後に、祭壇奉納の供え物としてささげたものである。

さてモーセは主と語るために、会見の幕屋にはいつて、あかしの箱の上の、贖罪所の上、二つのケルビムの

間から自分に語られる声を聞いた。すなわち、主は彼に語られた。

第八章 主はモーセに言われた、三アロンに

言いなさい、『あなたがともし火をともし時は、七つのもし火で燭台の前方を照すようにしなさい』。三アロンはそのようにした。すなわち、主がモーセに命じられたように、燭台の前方を照すように、ともし火をともした。燭台の造りは次のとおりである。それは金の打ち物で、その台もその花も共に打物造りであった。モーセは主に示された型にしたがって、そのようにその燭台を造った。

主はまたモーセに言われた、六レビびとをイスラエルの人々のうちから取って、彼らを清めなさい。七あなたはこのようにして彼らを清めなければならない。すなわち、罪を清める水を彼らに注ぎかけ、彼らに全身をそらせ、衣服を洗わせて、身を清めさせ、八そして彼らに若い雄牛一頭と、油を混ぜた麦粉の素祭とを取らせなさい。九あなたはまた、ほかに若い雄牛を罪祭のために取らなければならない。そして、あなたはレビびとを会見の幕屋の前に連れてきて、イスラエルの人々の全会衆を集め、一〇レビびとを主の前に進ませ、イスラエルの人々をして、手をレビびとの上に置かせなければならない。二そしてアロンは、レビびとをイスラエルの人々のささげる揺祭として、主の前にささげなければならない。こ

れは彼らに主の務をさせるためである。二それからあなたはレビびとをして、手をかの雄牛の頭の上に置かせ、その一つを罪祭とし、一つを燔祭として主にささげ、レビびとのために罪のあがないをしなければならない。三あなたはレビびとを、アロンとその子たちの前に立たせ、これを揺祭として主にささげなければならない。

四こうして、あなたはレビびとをイスラエルの人々のうちから分かち、レビびとをわたしのものとしなければならない。五こうして後レビびとは会見の幕屋にはいつて務につくことができる。あなたは彼らを清め、彼らをささげて揺祭としなければならない。六彼らはイスラエルの人々のうちから、全くわたしにささげられたものである。イスラエルの人々のうちの初めに生れた者、すなわち、すべてのういごの代りに、わたしは彼らを取ってわたしのものとした。七イスラエルの人々のうちのういごは、人も獣も、みなわたしのものだからである。わたしはエジプトの地で、すべてのういごを撃ち殺した日に、彼らを聖別してわたしのものとした。八それでわたしはイスラエルの人々のうちの、すべてのういごの代りにレビびとを取った。九わたしはイスラエルの人々のうちからレビびとを取って、アロンとその子たちに与え、彼らに会見の幕屋で、イスラエルの人々に代って務をさせ、またイスラエルの人々のために罪のあがないをさせるであろう。これはイスラエルの人々が、聖所に近づい



て、イスラエルの人々のうちに災の起ることのないようにするためである」。

二〇 モーセとアロン、およびイスラエルの人々の全会衆は、すべて主がレビびとの事につき、モーセに命じられた所にしたがって、レビびとに行つた。すなわち、イスラエルの人々は、そのように彼らに行つた。三そこでレビびとは身を清め、その衣服を洗つた。アロンは彼らに主の前にささげて揺祭とした。アロンはまた彼らのために、罪のあがないをして彼らを清めた。三こうして後、レビびとは会見の幕屋にはいつて、アロンとその子たちに仕えて務をした。すなわち、彼らはレビびとの事について、主がモーセに命じられた所にしたがって、そのように彼らに行つた。

二三 主はまたモーセに言われた、二四「レビびとは次のようにしなければならない。すなわち、二十五歳以上の者は務につき、会見の幕屋の働きをしなければならない。

二五 しかし、五十歳からは務の働きを退き、重ねて務をしてはならない。二六 ただ、会見の幕屋でその兄弟たちの務の助けをすることができ。しかし、務をしてはならない。あなたがレビびとにその務をさせるには、このようにしなければならない」。

## 第九章 「エジプトの国を出た次の年の正月、主

はシナイの荒野でモーセに言われた、三「イスラエルの人に、過越の祭を定め、時に行わせなさい。三この月の

十四日の夕暮、定め、時に、それを行わなければならない。あなたがたは、そのすべての定めと、そのすべてのおきてにしたがって、それを行わなければならない」。

四そこでモーセがイスラエルの人々に、過越の祭を行わなければならないと言つたので、五彼らは正月の十四日の夕暮、シナイの荒野で過越の祭を行つた。すなわち、イスラエルの人々は、すべて主がモーセに命じられたようにおこなつた。六ところが人の死体に触れて身を汚したために、その日に過越の祭を行うことのできない人々があつて、その日モーセとアロンの前にきて、七その人は彼に言つた、「わたしたちは人の死体に触れて身を汚しましたが、なぜその定め、時に、イスラエルの人々と共に、主に供え物をささげることができないのですか」。八モーセは彼らに言つた、「しばらく待て。主があなたにたについて、どう仰せになるかを聞こう」。

九主はモーセに言われた、一〇「イスラエルの人々に言いなさい、『あなたがたのうち、また、あなたがたの子孫のうち、死体に触れて身を汚した人も、遠い旅路にある人も、なお、過越の祭を主に対して行うことができるであらう。二すなわち、二月の十四日の夕暮、それを行い、種入れぬパンと苦菜を添えて、それを食べなければならない。三これを少しでも朝まで残しておいてはならない。またその骨は一本でも折ってはならない。過越の祭のすべての定めにしたがってこれを行わなければならない。』

三しかし、その身は清く、旅に出てもないのに、過越の祭を行わないときは、その人は民のうちから断たれるであろう。このような人は、定めの際に主の供え物をささげないゆえ、その罪を負わなければならない。四もし他国の人が、あなたがたのうちに寄留していて、主に対して過越の祭を行おうとするならば、過越の祭の定めにより、そのおきてにしたがって、これを行わなければならない。一の定めを用いなければならない。

二幕屋を建てた日に、雲は幕屋をおおった。それはすなわち、あかしの幕屋であって、夕には、幕屋の上に、雲は火のように見えて、朝にまで及んだ。一六常にそうであって、昼は雲がそれをおおい、夜は火のように見えた。一七雲が幕屋を離れてのぼる時は、イスラエルの人々は、ただちに道に進んだ。また雲がとどまる所に、イスラエルの人々は宿営した。一八すなわち、イスラエルの人々は、主の命によって道に進み、主の命によって宿営し、幕屋の上に雲がとどまっている間は、宿営していた。一九幕屋の上に、日久しく雲のとどまる時は、イスラエルの人々は主の言いつけを守って、道に進まなかった。二〇また幕屋の上に、雲のとどまる日の少ない時もあったが、彼らは、ただ主の命にしたがって宿営し、主の命にしたがって、道に進んだ。二一また雲は夕から朝まで、とどまることもあったが、朝になって、雲がのぼる時は、彼らは道

に進んだ。また昼でも夜でも、雲がのぼる時は、彼らは道に進んだ。二二ふつかでも、一か月でも、あるいはそれ以上でも、幕屋の上に、雲がとどまっている間は、イスラエルの人々は宿営していて、道に進まなかったが、それがのぼると道に進んだ。二三すなわち、彼らは主の命にしたがって宿営し、主の命にしたがって道に進み、モーセによって、主が命じられたとおりに、主の言いつけを守った。

第一章 一主はモーセに言われた、三銀のラッ

パを二本つくりなさい。すなわち、打物造りとし、それで会衆を呼び集め、また宿営を進ませなさい。三この二つを吹くときは、全会衆が会見の幕屋の入口に、あなたの所に集まってこなければならない。四もしその一つだけを吹くときは、イスラエルの氏族の長であるつかさたち、あなたがたの所に集まってこなければならない。五またあなたがたが警報を吹き鳴らす時は、東の方の宿営が、道に進まなければならない。六二度目の警報を吹き鳴らす時は、南の方の宿営が、道に進まなければならない。七すべて道に進む時は、警報を吹き鳴らさなければならない。八また会衆を集める時にも、ラッパを吹き鳴らす。九警報は吹き鳴らしてはならない。一〇アロンの子である祭司たちが、ラッパを吹かなければならない。これはあなたがたが、代々ながく守るべき定めとしなければならない。一一また、あなたがたの国で、あなたがたをしえたげ

るあだとの戦いに出る時は、ラッパをもって、警報を吹き鳴らさなければならぬ。そうするならば、あなたがたは、あなたがたの神、主に覚えられて、あなたがたの敵から救われるであろう。また、あなたがたの喜びの日、あなたがたの祝いの時、および月々の第一日には、あなたがたの燔祭と酬恩祭の犠牲をささげるに当って、ラッパを吹き鳴らさなければならぬ。そうするならば、あなたがたの神は、それによって、あなたがたを覚えられるであろう。わたしはあなたがたの神、主である」。

二年の二月二十日に、雲があかしの幕屋を離れてのぼったので、ミスラエルの人々は、シナイの荒野を出て、その旅路に進んだが、バランの荒野に至って、雲はとどまった。こうして彼らは、主がモーセによって、命じられたところにしたがって、道に進むことを始めた。二先頭には、ユダの子たちの宿営の旗が、その部隊を従えて進んだ。ユダの部隊の長はアミナダブの子ナシオン、二五イツサカルの子たちの部族の部隊の長はツアルの子ネタニエル、二六ゼブルンの子たちの部族の部隊の長はヘロンの子エリアブであった。

そして幕屋は取りくずされ、ゲルシヨンの子たち、およびメラリの子たちは幕屋を運び進んだ。次にルベンの宿営の旗が、その部隊を従えて進んだ。ルベンの部隊の長はシデウルの子エリヅル、二九シメオンの子たちの部族の部隊の長はツリシャダイの子シルミエル、三〇ガド

の子たちの部族の部隊の長はデウエルの子エリアサフであった。

三そしてコハテびとは聖なる物を運び進んだ。これに着くまでに、人々は幕屋を建て終るのである。三次にエフライムの子たちの宿営の旗が、その部隊を従えて進んだ。エフライムの部隊の長はアミホデの子エリシヤマ、三三マナセの子たちの部族の部隊の長はパダヅルの子ガマリエル、三四ベニヤミンの子たちの部族の部隊の長はギデオニの子アビダンであった。

次にダンの子たちの宿営の旗が、その部隊を従えて進んだ。この部隊はすべての宿営のしんがりであった。ダンの部隊の長はアミシャダイの子アヒエゼル、二六アセルの子たちの部族の部隊の長はオクランの子バギエル、二七ナフタリの子たちの部族の部隊の長はエナンの子アヒラであった。二八イスラエルの人々が、その道に進む時は、このように、その部隊に従って進んだ。

二九さて、モーセは、妻の父、ミデヤンびとリウエルの子ホバブに言った、「わたしたちは、かつて主がおまえたちに与えたと約束された所に向かって進んでいます。あなたも一緒においでください。あなたが幸福になられるようにいたしましょう。主がイスラエルに幸福を約束されたのですから」。三〇彼はモーセに言った、「わたしは行きません。わたしは国に帰って、親族のもとに行きま



てないでください。あなたは、わたしたちが荒野のどこに宿営すべきかを御存じですから、わたしたちの目となくしてください。三もしあなたが一緒においでくださるなら、主がわたしたちに賜わる幸福をあなたにも及ぼしましょう。

三こうして彼らは主の山を去って、三日の行程を進んだ。主の契約の箱は、その三日の行程の間、彼らに先立って行き、彼らのために休む所を尋ねもとめた。四彼らが宿営を出て、道に進むとき、昼は主の雲が彼らの上にあった。

三五契約の箱が進むときモーセは言った、

「主よ、立ちあがってください。」

あなたの敵は打ち散らされ、

あなたを憎む者どもは、

あなたの前から逃げ去りますように。」

三六またそのとき、彼は言った、

「主よ、帰ってきてください。」

イスラエルのちよるずの人に。」

## 第一章

一さて、民は災難に会っている人のよ

うに、主の耳につぶやいた。主はこれを聞いて怒りを発

せられ、主の火が彼らのうちに燃えあがって、宿営の端

を焼いた。二そこで民はモーセにむかって叫んだ。モー

セが主に祈ったので、その火はしずまった。三主の火が

彼らのうちに燃えあがったことによって、その所の名は

タベラと呼ばれた。

四また彼らのうちにいた多くの寄り集まりびとは欲心を起し、イスラエルの人々もまた再び泣いて言った、「ああ、肉が食べたい。五われわれは思い起すが、エジプトでは、ただで、魚を食べた。きゅうりも、すいかも、にらも、たまねぎも、そして、にんにくも。六しかし、いま、われわれの精根は尽きた。われわれの目の前には、このマナのほか何もない。」

七マナは、こえんどうの実のようで、色はブドラクの色のもちとした。八民は歩きまわって、これを集め、ひきうすでひき、または、うすでつき、かまで煮て、これをもちとした。九その味は油菓子味のようであった。一〇夜、宿営の露がおりるとき、マナはそれと共に降った。

一一モーセは、民が家ごとに、おのおのその天幕の入口で泣くのを聞いた。そこで主は激しく怒られ、またモーセは不快に思った。一二そして、モーセは主に言った、「あなたはなぜ、しもべに悪い仕打ちをされるのですか。どうしてわたしはあなたの前に恵みを得ないで、このすべての民の重荷を負わされるのですか。三わたしがこのすべての民を、はらんだのですか。わたしがこれを生んだのですか。四そうではないのに、あなたはなぜわたしに『養い親が乳児を抱くように、彼らをふところに抱いて、あなたが彼らの先祖たちに誓われた地に行け』と言われるのですか。五わたしはどこから肉を獲て、このすべて

の民に与えることができませんでした。彼らは泣いて、『肉を食べさせよ』とわたしに言っているのです。二四わたしひとりでは、このすべての民を負うことができません。それはわたしには重過ぎます。二五もしわたしがあなたの前に恵みを得ますならば、わたしにこのような仕打ちをされるよりは、むしろ、ひと思いに殺し、このうえ苦しみに会わせないでください。

二六主はモーセに言われた、「イスラエルの長老たちのうち、民の長老となり、つかさとなるべきことを、あなたが知っている者七十人をわたしのもとに集め、会見の幕屋に連れてきて、そこにあなたと共に立たせなさい。二七わたしは下って、その所で、あなたと語り、またわたしはあなたの上にある霊を、彼らにも分け与えるであろう。彼らはあなたと共に、民の重荷を負い、あなたが、ただひとりで、それを負うことのないうようにするであろう。二八あなたはまた民に言いなさい、『あなたがたは身を清めて、あすを待ちなさい。あなたがたは肉を食べることができである。あなたがたが泣いて主の耳に、わたしたちは肉が食べたい。エジプトにいた時は良かったと言ったからである。それゆえ、主はあなたがたに肉を与えて食べさせられるであろう。一九あなたがたがそれを食べるのは、一日や二日や五日や十日や二十日ではなく、二〇一か月に及び、ついにあなたがたの鼻から出るようになります。あなたがたは、それに飽き果てるであろう。それ

はあなたがたのうちにおられる主を軽んじて、その前に泣き、なぜ、わたしたちはエジプトから出てきたのだろうと言ったからである。二二モーセは言った、『わたしと共にいる民は徒歩の男子だけでも六十万です。ところがあなたは、『わたしは彼らに肉を与えて一か月のあいだ食べさせよう』と言われます。二三羊と牛の群れを彼らのためにほふって、彼らを飽きさせるといいますか。海のすべての魚を彼らのために集めて、彼らを飽きさせるといいますか。二四主はモーセに言われた、『主の手は短かろうか。あなたは、いま、わたしの言葉の成るかどうかを見るであろう』。

二五この時モーセは出て、主の言葉を民に告げ、民の長老たち七十人を集めて、幕屋の周囲に立たせた。二六主は雲のうちにあって下り、モーセと語られ、モーセの上にある霊を、その七十人の長老たちにも分け与えられた。その霊が彼らの上にとどまった時、彼らは預言した。ただし、その後は重ねて預言しなかった。

二七その時ふたりの者が、宿営にとどまっていたが、ひとりの名はエルダデと言い、ひとりの名はメダデといった。彼らの上にも霊がとどまった。彼らは名をしるされた者であったが、幕屋に行かなかった。宿営のうちで預言した。二八時にひとりの若者が走ってきて、モーセに告げて言った、『エルダデとメダデとが宿営のうちに預言しています』。二九若い時からモーセの従者であったヌ

ンの子ヨシユアは答えて言った、「わが主、モーセよ、彼らをさし止めてください」。二九モーセは彼に言った、「あなたは、わたしのためを思って、ねたみを起しているのか。主の民がみな預言者となり、主がその霊を彼らに与えられることは、願わしいことだ」。三〇こうしてモーセはイスラエルの長老たちと共に、宿営に引きあげた。

三十一さて、主のもとから風が起り、海に向こうから、うずらを運んできて、これを宿営の近くに落した。その落ちた範圍は、宿営の周圍で、こちら側も、おおよそ一日の行程、あちら側も、おおよそ一日の行程、地面から高さおおよそ二キュビトであった。三十二そこで民は立ち上がってその日は終日、その夜は終夜、またその次の日も終日、うずらを集めたが、集める事の最も少ない者も、十ホルほど集めた。彼らはみな、それを宿営の周圍に広げておいた。三十三その肉がなお、彼らの齒の間にあって食べつくさないうちに、主は民にむかつて怒りを発し、主は非常に激しい疫病をもって民を撃たれた。三十四これによつて、その所の名はキプロテ・ハッタワと呼ばれた。三十五欲心を起した民を、そこに埋めたからである。三十五キプロテ・ハッタワから、民はハゼロテに進み、ハゼロテにとどまつた。

第一二章 モーセはクシの女をめぐっていたが、そのクシの女をめぐつたゆえをもつて、ミリアムとアロンはモーセを非難した。二彼らは言った、「主はただモー

セによつて語られるのか。われわれによつても語られるのではないのか。主はこれを聞かれた。三モーセはその人となり柔和なことで、地上のすべての人にまさっていた。四そこで、主は突然モーセとアロン、およびミリアムにむかつて「あなたがた三人、会見の幕屋に出てきなさい」と言われたので、彼ら三人は出てきたが、五主は雲の柱のうちにあって下り、幕屋の入口に立つて、アロンとミリアムを呼ばれた。彼らふたりが進み出ると、六彼らに言われた、「あなたがたは、いま、わたしの言葉を聞きなさい。あなたがたのうちにも、もし、預言者があるならば、主なるわたしは幻をもつて、これにわたしを知らせ、また夢をもつて、これと語るであらう。七しかし、わたしのしもべモーセとは、そうではない。彼はわたしの全家に忠信なる者である。八彼とは、わたしは口ずから語り、明らかに言つて、なぞを使わぬ。彼はまた主の形を見るのである。なぜ、あなたがたはわたしのしもべモーセを恐れず非難するのか」。九

主は彼らにむかい怒りを発して去られた。一〇雲が幕屋の上を離れ去つた時、ミリアムは、らい病となり、その身は雪のように白くなった。アロンがふり返つてミリアムを見ると、彼女はらい病になつていた。二そこで、アロンはモーセに言つた、「ああ、わが主よ、わたしたちは愚かなことをして罪を犯しました。どうぞ、その罰をわたしたちに受けさせないでください。三どうぞ彼女を



母の胎から肉が半ば滅びうせて出る死人のようにしないでください」。二三その時モーセは主に呼ばわって言った、「ああ、神よ、どうぞ彼女をいやしてください」。二四主はモーセに言われた、「彼女の父が彼女の顔につばきしてさえ、彼女は七日のあいだ、恥じて身を隠すではないか。彼女を七日のあいだ、宿営の外で閉じこめておかなければならない。その後、連れもどしてもよい」。二五そこでミリアムは七日のあいだ、宿営の外で閉じこめられた。民はミリアムが連れもどされるまでは、道に進まなかった。二六その後、民はハゼロテを立て進み、パランの荒野に宿営した。

第一三章 一主はモーセに言われた、二人をつか

わして、わたしがイスラエルの人々に与えるカナンの地を探らせなさい。すなわち、その父祖の部族ごとに、すべて彼らのうちのつかさたる者ひとりずつをつかわしなさい。三モーセは主の命にしたがって、パランの荒野から彼らをつかわした。その人々はみなイスラエルの人々のかしらたちであった。四彼らの名は次のとおりである。ルベンの部族ではザツクルの子シヤンマ、五シメオンの部族ではホリの子シヤパテ、六ユダの部族ではエフシネの子カレブ、七イツサカルの子ヨセフの子イガル、八エフライムの部族ではヌンの子ホセア、九ベニヤミンの部族ではラフの子バルテ、一〇ゼブルンの部族ではソデの子ガデエル、一一ヨセフの部族すなわち、マナセの部族で

はスシの子ガデ、一二ダンの部族ではゲマリの子アンミエル、一三アセルの部族ではミカエルの子セトル、一四ナフタリの部族ではワフシの子ナヘビ、一五ガドの部族ではマキの子ギウエル。一六以上はモーセがその地を探らせるためにつかわした人々の名である。そしてモーセはヌンの子ホセアをヨシユアと名づけた。

一七モーセは彼らをつかわし、カナンの地を探らせようとして、これに言った、「あなたがたはネゲブに行つて、山に登り、一八その地の様子を見、そこに住む民は、強いかわい、少ないかわい、九また彼らの住んでいる地は、良いかわい、悪いかわい。人々の住んでいる町々は、天幕か、城壁のある町か、二〇その地は、肥えているか、やせているか、そこには、木があるかないかを見なさい。あなたがたは、勇んで行つて、その地のくだものを取ってきなさい。時は、二一ぶどうの熟し始める季節であった。

二三そこで、彼らはのぼっていつて、その地をチンの荒野からハマテの入口に近いレホブまで探つた。二三彼らはネゲブにのぼって、ヘブロンまで行つた。そこにはアナクの子孫であるアヒマン、セシヤイ、およびタルマイがいた。ヘブロンはエジプトのゾアンよりも七年前に建てられたものである。二三ついに彼らはエシコルの谷に行つて、そこで一ふさのぶどうの枝を切り取り、これを棒をもつて、ふたりでかつぎ、また、ざくるといちじくをも取つた。二四イスラエルの人々が、そこで切り取つたぶど

うの一ふさにちなんで、その所はエシコルの谷と呼ばれた。

三十四日の後、彼らはその地を探り終って帰ってきた。

二五そして、パランの荒野にあるカデシにいたモーセとアロン、およびイスラエルの人々の全会衆のもとに行つて、彼らと全会衆とに復命し、その地のくだものを彼らに見せた。二七彼らはモーセに言った、「わたしたちはあなたが、つかわした地へ行きました。そこはまことに乳と蜜の流れ、わたしたちはそこにアナクの子孫がいるのを見ました。二八またネゲブの地には、アマレクびとが住み、山地にはヘテびと、エブスびと、アモリびとが住み、海べとヨルダンの岸べには、カナンびとが住んでいます」。

三〇そのとき、カレブはモーセの前で、民をしずめて言った、「わたしたちはすぐにのぼって、攻め取りましょう。わたしたちは必ず勝つことができます」。三二しかし、彼とともにのぼって行った人々は言った、「わたしたちはその民のところへ攻めのぼることはできません。彼らはわたしたちよりも強いからです」。三三そして彼らはその探った地のことを、イスラエルの人々に悪く言いふらして言った、「わたしたちが行き巡って探った地は、そこに住む者を滅ぼす地です。またその所でわたしたちが見た民はみな背の高い人々です。三三わたしたちはまたそこ

で、ネピリムから出たアナクの子孫ネピリムを見ました。わたしたちには自分、いなごのように思われ、また彼らにも、そう見えたに違いありません」。

第一四章 一そこで、会衆はみな声をあげて叫び、民はその夜、泣き明かした。二またイスラエルの人々はみなモーセとアロンにむかつてつぶやき、全会衆は彼らに言った、「ああ、わたしたちはエジプトの国で死んでいたらよかったのに。この荒野で死んでいたらよかったのに。三なにゆえ、主はわたしたちをこの地に連れてきて、つるぎに倒れさせ、またわたしたちの妻子をえじきとされるのであろうか。エジプトに帰る方が、むしろ良いではないか」。

四彼らは互に言った、「わたしたちはひとりのかしらを立てて、エジプトに帰ろう」。五そこで、モーセとアロンはイスラエルの人々の全会衆の前でひれふした。六このとき、その地を探った者のうちのヌンの子ヨシユアとエフネの子カレブは、その衣服を裂き、七イスラエルの人々の全会衆に言った、「わたしたちが行き巡って探った地は非常に良い地です。八もし、主が良しとされるならば、わたしたちをその地に導いて行つて、それをわたしたちにくださるでしょう。それは乳と蜜の流れている地です。九ただ、主にそむいてはなりません。またその地の民を恐れてはなりません。彼らはわたしたちの食い物にすぎません。彼らを守る者は取り除かれます。主がわ

たしたちと共におられますから、彼らを恐れてはなりません。一〇ところが会衆はみな石で彼らを撃ち殺そうとした。

そのとき、主の栄光が、会見の幕屋からイスラエルのすべての人に現れた。二主はモーセに言われた、「この民はいつまでわたしを侮るのか。わたしはもろもろのしるしを彼らのうちに行つたのに、彼らはいつまでわたしを信じないのか。三わたしは疫病をもって彼らを撃ち滅ぼし、あなたを彼らよりも大いなる強い国民としよう」。

三モーセは主に言つた、「エジプトびとは、あなたが力をもつて、この民を彼らのうちから導き出されたことを聞いて、四この地の住民に告げるでしょう。彼らは、主なるあなたが、この民のうちに於かれ、主なるあなたが、まのあたり現れ、あなたの雲が、彼らの上にとどまり、昼は雲の柱のうちに、夜は火の柱のうちにあって、彼らの前に行かれるのを聞いたのです。五いま、もし、あなたがこの民をひとり残らず殺されるならば、あなたのことを聞いた国民は語つて、六『主は与えたと誓つた地に、この民を導き入れることができなかったため、彼らを荒野で殺したのだ』と言うでしょう。七どうぞ、あなたが約束されたように、いま主の大いなる力を現してください。八あなたはかつて、『主は怒ることおそく、いつくしみに富み、罪ととがをゆるす者、しかし、罰すべき者は、決してゆるさず、父の罪を子に報いて、三、四代に及ぼ

す者である』と言われました。九どうぞ、あなたの大きないつくしみによつて、エジプトからこのかた、今にいたるまで、この民をゆるされたように、この民の罪をおゆるしてください」。

三〇主は言われた、「わたしはあなたの言葉のとおりにゆるそう。三しかし、わたしは生きています。また主の栄光が、全世界に満ちている。三わたしは栄光と、わたしがエジプトと荒野で行つたしるしを見ながら、このように十度もわたしを試みて、わたしの声に聞きしたがわなかつた人々はひとりも、三わたしがかつて彼らの先祖たちと与えたと誓つた地を見ないであろう。またわたしを侮つた人々も、それを見ないであろう。二四ただし、わたしのしもべカレブは違つた心をもつていて、わたしに完全に従つたので、わたしは彼が行つてきた地に彼を導き入れるであろう。彼の子孫はそれを所有するにいたるであろう。二五谷にはアマレクびととカナンびとが住んでゐるから、あなたがたは、あす、身をめぐらして紅海の道を荒野へ進みなさい」。

二六主はモーセとアロンに言われた、二七『わたしにむかつてつぶやくこの悪い会衆をいつまで忍ぶことができませんか。わたしはイスラエルの人々が、わたしにむかつてつぶやくのを聞いた。二八あなたは彼らに言いなさい、『主は言われる、わたしは生きています。あなたがたが、わたしの耳に語つたように、わたしはあなたがたにするで



あろう。二九あなたがたは死体となつて、この荒野に倒れるであらう。あなたがたのうち、わたしにむかつてつぶやいた者、すなわち、すべて数えられた二十歳以上の者はみな倒れるであらう。三〇エフソネの子カレブと、ヌンの子ヨシユアのほかは、わたしがかつて、あなたがたを住まわせようと、手をあげて誓つた地に、はいることができるであらう。三十一しかし、あなたがたが、えじきになるであらうと言つたあなたがたの子供は、わたしが導いて、はいるであらう。彼らはあなたがたが、いやしめた地を知るようになるであらう。三十二しかしあなたがたは死体となつてこの荒野に倒れるであらう。三十三あなたがたの子たちは、あなたがたの死体が荒野に朽ち果てるまで四十年のあいだ、荒野で羊飼となり、あなたがたの不信の罪を負うであらう。三四あなたがたは、かの地を探つた四十日の日数にしたがい、その一日を一年として、四十年のあいだ、自分の罪を負い、わたしがあなたがたを遠ざかったことを知るであらう。三五主なるわたしがこれを言う。わたしは必ずわたしに逆らつて集まつたこの悪い会衆に、これをことごとく行うであらう。彼らはこの荒野に朽ち、ここで死ぬであらう。』

三六こうして、モーセにつかわされ、かの地を探りに行き、帰つてきて、その地を悪く言い、全会衆を、モーセにむかつて、つぶやかせた人々、三七すなわち、その地を悪く言いふらした人々は、疫病にかかつて主の前に死ん

だが、三八その地を探りに行った人々のうち、ヌンの子ヨシユアと、エフソネの子カレブとは生き残つた。

三九モーセが、これらのことを、イスラエルのすべての人々に告げたとき、民は非常に悲しみ、四〇朝早く起きて山の頂に登つて言つた、「わたしたちはここにゐる。さあ、主が約束された所へ上つて行こう。わたしたちは罪を犯したのだから。四一モーセは言つた、「あなたがたは、それをなし遂げることもできないのに、どうして、そのように主の命にそむくのか。四二あなたがたは上つて行つてはならない。主があなたがたのうちにおられないから、あなたがたは敵の前に、撃ち破られるであらう。四三そこには、アマレクびとと、カナンびとがあなたがたの前にゐるから、あなたがたは、つるぎに倒れるであらう。あなたがたがそむいて、主に従わなかつたゆえ、主はあなたがたと共におられないからである。四四しかし、彼らは、ほしいままに山の頂に登つた。ただし、主の契約の箱と、モーセとは、宿営の中から出なかつた。四五そこで、その山に住んでいたアマレクびとと、カナンびとが下つてきて、彼らを撃ち破り、ホルマまで追つてきた。

第一五章 一主はモーセに言われた、二「イスラエルの人々に言いなさい、『あなたがたが、わたしの与えて住ませる地に行つて、三主に火祭をささげる時、すなわち特別の誓願の供え物、あるいは自発の供え物、あるいは祝のときの供え物として、牛または羊を燔祭または犠牲と

してささげ、主に香ばしいかおりとするとき、四五その供え物を主にささげる者は、燔祭または犠牲と共に、小羊一頭ごとに、麦粉一エバの十分の一に、油一ヒンの四分の一を混ぜたものを、素祭としてささげ、ぶどう酒一ヒンの四分の一を、灌祭としてささげなければならぬ。六もし、また雄羊を用いるときは、麦粉一エバの十分の二に、油一ヒンの三分の一を混ぜたものを、素祭としてささげ、また、ぶどう酒一ヒンの三分の一を、灌祭としてささげて、主に香ばしいかおりとしなければならぬ。八またあなたが特別の誓願の供え物、あるいは酬恩祭を、主にささげる時、若い雄牛を、燔祭または犠牲とするならば、麦粉一エバの十分の三に、油一ヒンの二分の一を混ぜたものを、素祭として、若い雄牛と共にささげ、九また、ぶどう酒一ヒンの二分の一を、灌祭としてささげなければならぬ。これは火祭であつて、主に香ばしいかおりとするものである。

二雄牛、あるいは雄羊、あるいは小羊、あるいは子やぎは、一頭ごとに、このようにしなければならぬ。二三すなわち、あなたがたのささげる数にてらし、その数にしたがつて、一頭ごとに、このようにしなければならぬ。二三すべて国に生れた者が、火祭をささげて、主に香ばしいかおりとするときは、このように、これらのことを行わなければならない。二四またあなたがたのうちに寄留している他国人、またはあなたがたのうちに、代々ながく

住む者が、火祭をささげて、主に香ばしいかおりとしよふとする時は、あなたがたがするように、その人もしなければならぬ。二五会衆たる者は、あなたがたも、あなたがたのうちに寄留している他国人も、同一の定めに従わなければならない。これは、あなたがたが代々ながく守るべき定めである。他国の人も、主の前には、あなたがたと等しくなければならない。二六すなわち、あなたがたも、あなたがたのうちに寄留している他国人も、同一の律法、同一のおきてに従わなければならない。

二七主はまたモーセに言われた、二八イスラエルの人々に言いなさい、『わたしが導いて行く地に、あなたがたは、はいつて、九その地の食物を食べるとき、あなたがたは、ささげ物を主にささげなければならぬ。二九すなわち、麦粉の初物で作った菓子、ささげ物としなければならぬ。これを、打ち場からのささげ物のように、ささげなければならぬ。三〇あなたがたは代々その麦粉の初物で、主にささげ物をしなければならぬ。

三あなたがたが、もしあやまって、主がモーセに告げられたこのすべての戒めを行わず、三二主がモーセによって戒めを与えられた日からこのかた、代々にわたり、あなたがたに命じられたすべての事を行わないとき、三三すなわち、会衆が知らずに、あやまって犯した時は、全会衆は若い雄牛一頭を、燔祭としてささげ、主に香ばしいかおりとし、これに素祭と灌祭とを定めのように加え、ま

た雄やぎ一頭を、罪祭としてささげなければならぬ。  
 三二 として祭司は、イスラエルの人々の全会衆のために、罪のあがないをしなければならぬ。そうすれば、彼らはゆるされるであろう。それは過失だからである。彼らはその過失のために、その供え物として、火祭を主にささげ、また罪祭を主の前にささげなければならぬ。  
 三三 そうすれば、イスラエルの人々の全会衆はゆるされ、また彼らのうちに寄留してゐる他国人も、ゆるされるであろう。民はみな過失を犯したからである。

三七 もし人があやまって罪を犯す時は、一歳の雌やぎ一頭を罪祭としてささげなければならぬ。三八 として祭司は、人があやまって罪を犯した時、そのあやまって罪を犯した人のために、主の前に罪のあがないをして、その罪をあがなわなければならぬ。そうすれば、彼はゆるされるであろう。三九 イスラエルの人々のうちの、国に生れた者でも、そのうちに寄留してゐる他国人でも、あやまって罪を犯す者には、あなたがたは同一の律法を用ひなければならぬ。四〇 しかし、国に生れた者でも、他国の人でも、故意に罪を犯す者は主を汚すもので、その人は民のうちから断たれなければならぬ。四一 彼は主の言葉を侮り、その戒めを破つたのであるから、必ず断たれ、その罪を負わなければならぬ。』

四二 イスラエルの人々が荒野におるとき、安息日にひとりの人が、たきぎを集めるのを見た。四三 そのたきぎを集

めるのを見た人々は、その人をモーセとアロン、および全会衆のもとに連れてきたが、四四 どう取り扱うべきか、まだ示しを受けていなかった。四五 彼を閉じ込めておいた。四五 そのとき、主はモーセに言われた、「その人は必ず殺されなければならぬ。全会衆は宿営の外で、彼を石で撃ち殺さなければならぬ。』四六 そこで、全会衆は彼を宿営の外に連れ出し、彼を石で撃ち殺し、主がモーセに命じられたようにした。

三七 主はまたモーセに言われた、三八「イスラエルの人々に命じて、代々その衣服のすその四すみにふさをつけ、そのふさを青ひもで、すその四すみにつけさせなさい。三九 あなたがたが、そのふさを見て、主のもろもろの戒めを思い起して、それを行ひ、あなたがたが自分の心と目の欲に従つて、みだらな行ひをしないためである。四〇 こうして、あなたがたは、わたしのもろもろの戒めを思い起して、それを行ひ、あなたがたの神に聖なる者とならなければならぬ。四一 わたしはあなたがたの神、主であつて、あなたがたの神となるために、あなたがたをエジプトの国から導き出した者である。わたしはあなたがたの神、主である。』

第一六章 ここに、レビの子コハテの子なるイズハルの子コラと、ルベンの子なるエリアブの子ダタンおよびアビラムと、ルベンの子なるベレテの子オンとが相結び、イスラエルの人々のうち、会衆のうちから選



ばれて、つかさとなった名のある人々二百五十人と共に立って、モーセに逆らった。<sup>三</sup> 彼らは集まって、モーセとアロンとに逆らって言った、「あなたは、分を越えています。全会衆は、ことごとく聖なるものであつて、主がそのうちにおられるのに、どうしてあなたがたは、主の会衆の上に立つのですか」。<sup>四</sup> モーセはこれを聞いてひれ伏した。<sup>五</sup> やがて彼はコラと、そのすべての仲間とに言った、「あす、主は、主につくものはだれ、聖なる者はだれであるかを示して、その人をみもとに近づけるであらう。すなわち、その選んだ人を、みもとに近づけられるであらう。それで、次のようにしなさい。コラとそのすべての仲間とは、火ざらを取り、<sup>七</sup> その中に火を入れ、それに薫香を盛って、あす、主の前に出なさい。その時、主が選ばれる人は聖なる者である。レビの子たちよ、あなたがたこそ、分を越えている」。<sup>八</sup> モーセはまたコラに言った、「レビの子たちよ、聞きなさい。イスラエルの神はあなたがたをイスラエルの会衆のうちから分かち、主<sup>九</sup> に近づかせて、主の幕屋の務をさせ、かつ会衆の前に立つて仕えさせられる。これはあなたがたにとつて、小さいことであらうか。神はあなたがたの兄弟なるレビの子たちをみな近づけられた。あなたがたはなお、その上に祭司となることを求めるのか。<sup>二</sup> あなたとあなたの仲間は、みなそのために集まって主に敵している。あなたがたはアロンをなんと思つて、彼

に對してつぶやくのか」。

<sup>三</sup> モーセは人をやつて、エリアブの子ダタンとアピラムとを呼ばせたが、彼らは言った、「わたしたちは参りません。<sup>三</sup> あなたは乳と蜜の流れる地から、わたしたちを導き出して、荒野でわたしたちを殺そうとしている。これは小さいことでしょうか。その上、あなたはわたしたちに君臨しようとしている」。<sup>四</sup> かつまた、あなたはわたしたちを、乳と蜜の流れる地に導いて行かず、畑と、ぶどう畑とを嗣業として与えもしない。これらの人々の目をくらまそうとするのですか。わたしたちは参りません」。

<sup>五</sup> モーセは大いに怒つて、主に言った、「彼らの供え物を顧みないでください。わたしは彼らから、ろば一頭をも取つたことなく、また彼らのひとりをも害したことはありません」。<sup>六</sup> そしてモーセはコラに言った、「あなたとあなたの仲間はみなアロンと一緒に、あす、主の前に出なさい」。<sup>七</sup> あなたがたは、おのおの火ざらを取つて、それに薫香を盛り、おのおのその火ざらを主の前に携えて行きなさい。その火ざらは合せて二百五十。あなたとアロンも、おのおの火ざらを携えて行きなさい」。<sup>八</sup> 彼らは、おのおの火ざらを取り、火をその中に入れ、それに薫香を盛り、モーセとアロンと共に、会見の幕屋の入口に立つた。<sup>九</sup> そのとき、コラは会衆を、ことごとく会見の幕屋の入口に集めて、彼らふたりに逆らわせようと

したが、主の栄光は全会衆に現れた。

二三主はモーセとアロンに言われた、「二」あなたがたはこの会衆を離れなさい。わたしはただちに彼らを滅ぼすであろう。二三彼らふたりは、ひれ伏して言った、「神よ、すべての肉なる者の命の神よ、このひとりの人が、罪を犯したからといって、あなたは全会衆に対して怒られるのですか」。二三主はモーセに言われた、「二四」あなたは会衆に告げて、コラとダタンとアビラムのすまいの周囲を去れと言いなさい」。

二五モーセは立つてダタンとアビラムのもとに行つたが、イスラエルの長老たちも、彼に従つて行つた。二六モーセは会衆に言った、「どうぞ、あなたがたはこれらの悪い人の天幕を離れてください。彼らのものには何にも触れてはならない。彼らのもろもろの罪によつて、あなたがたも滅ぼされてはいけないから」。二七そこで人々はコラとダタンとアビラムのすまいの周囲を離れ去つた。そして、ダタンとアビラムとは、妻、子、および幼児と一緒に出て、天幕の入口に立つた。二八モーセは言った、「あなたがたは主がこれらのすべての事をさせるために、わたしをつかわされたこと、またわたしが、これを自分の心にしながら行つたものでないことを、次のことによつて知るであろう。二九すなわち、もしこれらの人々が、普通の死に方で死に、普通の運命に会うのであれば、主がわたしをつかわされたのではない。三〇しかし、主が新しい

事をされ、地が口を開いて、これらの人々と、それに属する者々とを、ことごとくのみつくして、生きながら陰府に下らせられるならば、あなたがたはこれらの人々が、主を侮つたのであることを知らなければならぬ」。

三一モーセが、これらのすべての言葉を述べ終つたとき、彼らの下の土地が裂け、三二地は口を開いて、彼らとその家族、ならびにコラに属するすべての人々と、すべての所有物をのみつくした。三三すなわち、彼らと、彼らに属するものは、皆生きながら陰府に下り、地はその上を閉じふさいで、彼らは会衆のうちから、断ち滅ぼされた。三四この時、その周囲にいたイスラエルの人々は、みな彼らの叫びを聞いて逃げ去り、「恐らく地はわたしたちをも、のみつくすであろう」と言つた。三五また主のもとから火が出て、薫香を供える二百五十人をも焼きつくした。

三六主はモーセに言われた、「三七」あなたは祭司アロンの子エレアザルに告げて、その燃える火の中から、かの火さらを取り出させ、その中の火を遠くまき散らせなさい。それらの火さらは聖となつたから、三八罪を犯して命を失つた人々の、これらの火さらを、広い延べ板として、祭壇のおおとしなさい。これは主の前にさげられて、聖となつたからである。こうして、これはイスラエルの人々に、しるしとなるであろう」。三九そこで祭司エレアザルは、かの焼き殺された人々が供えた青銅の火さらを取り、これを広く打ち延ばして、祭壇のおおい

とし、<sup>四〇</sup>これをイスラエルの人々の記念の物とした。これはアロンの子孫でないほかの人が、主の前に近づいて、薫香をたくことのないようにするため、またその人がコラ、およびその仲間のようにならないためである。すなわち、主がモーセによってエレアザルに言われたとおりである。

<sup>四一</sup>その翌日、イスラエルの人々の会衆は、みなモーセとアロンとにつぶやいて言った、「あなたがたは主の民を殺しました」。<sup>四二</sup>会衆が集まって、モーセとアロンとに逆らったとき、会見の幕屋を望み見ると、雲がこれをおおい、主の栄光が現れていた。<sup>四三</sup>モーセとアロンとが、会見の幕屋の前に行くと、<sup>四四</sup>主はモーセに言われた、<sup>四五</sup>「あなたがたはこの会衆を離れなさい。わたしはただちに彼らを滅ぼそう」。そこで彼らふたりは、ひれ伏した。<sup>四六</sup>モーセはアロンに言った、「あなたは火ざらを取って、それに祭壇から取った火を入れ、その上に薫香を盛り、急いでそれを会衆のもとに持って行って、彼らのために罪のあがないをしなさい。主が怒りを発せられ、疫病がすでに始まったからです」。<sup>四七</sup>そこで、アロンはモーセの言ったように、それを取って会衆の中に走って行ったが、疫病はすでに民のうちに始まっていたので、薫香をたいて、民のために罪のあがないをし、<sup>四八</sup>すでに死んだ者と、なお生きている者との間に立つと、疫病はやんだ。<sup>四九</sup>コラの事によって死んだ者のほかに、この疫

病によって死んだ者は一万四千七百人であった。<sup>五〇</sup>アロンは会見の幕屋の入口にいるモーセのもとに帰った。こうして疫病はやんだ。

**第一七章** <sup>一</sup>主はモーセに言われた、<sup>二</sup>「イスラエルの人々に告げて、彼らのうちから、おのおのの父祖の家にしたがって、つえ一本ずつを取りなさい。すなわち、そのすべてのつかさたちから、父祖の家にしたがって、つえ十二本を取り、その人々の名を、おのおののつえに書きしるし、<sup>三</sup>レビのつえにはアロンの名を書きしるしなさい。父祖の家のかしらは、おのおののつえ一本を出すのだからである」。<sup>四</sup>そして、これらのつえを、わたしがあなたがたに会う会見の幕屋の中の、あかしの箱の前に置きなさい。<sup>五</sup>わたしの選んだ人のつえには、芽が出るであらう。こうして、わたしはイスラエルの人々が、あなたがたにむかって、つぶやくのをやめさせるであらう」。<sup>六</sup>モーセが、このようにイスラエルの人々に語ったので、つかさたちはみな、その父祖の家にしたがって、おのおの、つえ一本ずつを彼に渡した。そのつえは合わせて十二本。アロンのつえも、そのつえのうちにあった。<sup>七</sup>モーセは、それらのつえを、あかしの幕屋の中の、主の前に置いた。

<sup>八</sup>その翌日、モーセが、あかしの幕屋にはいつて見ると、レビの家のために出したアロンのつえは芽をふき、つばみを出し、花が咲いて、あめんどうの実を結んでい



た。九モーセがそれらのつえを、ことごとく主の前から、イスラエルのすべての人の所に持ち出したので、彼らは見て、おのおの自分のつえを取った。一〇主はモーセに言われた、「アロンのつえを、あかしの箱の前に持ち帰り、そこに保存して、そむく者どものために、しるしとしなさい。こうして、彼らのわたしに対するつぶやきをやめさせ、彼らの死ぬのをまぬかれさせなければならぬ」。二モーセはそうにして、主が彼に命じられたとおりに行った。

三イスラエルの人々は、モーセに言った、「ああ、わたしたちは死ぬ。破滅です、全滅です。三主の幕屋に近づく者が、みな死ぬのであれば、わたしたちは死に絶えるではありませんか」。

第八章 「そこで、主はアロンに言われた、「あ

なたとあなたの子たち、およびあなたの父祖の家の方は、聖所に関する罪を負わなければならない。また、あなたとあなたの子たちとは、祭司職に関する罪を負わなければならない。二あなたはまた、あなたの兄弟なるレビの部族の者、すなわち、あなたの父祖の部族の者どもを、あなたに近づかせ、あなたに連なり、あなたに仕えさせなければならぬ。ただし、あなたとあなたの子たちとは、共にあかしの幕屋の前で仕えなければならない。三彼らは、あなたの務と、すべての幕屋の務とを守らなければならない。ただし、聖所の器と、祭壇とに近づい

てはならない。彼らもあなたがたも、死ぬことのないためである。四彼らはあなたに連なって、会見の幕屋の務を守り、幕屋のもろもろの働きをしなければならぬ。五ほかの者は、あなたがたに近づいてはならない。六このように、あなたがたは、聖所の務と、祭壇の務とを守らなければならない。そうすれば、主の激しい怒りは、かさねてイスラエルの人々に臨まないであろう。七わたしはあなたがたの兄弟たるレビとを、イスラエルの人々のうちから取り、主のために、これを賜物として、あなたがたに与え、会見の幕屋の働きをさせる。八あなたがたの子たちは共に祭司職を守って、祭壇と、垂幕のうちのすべての事を執り行い、共に勤めなければならぬ。九わたしは祭司の職務を賜物として、あなたがたに与える。ほかの人で近づく者は殺されるであろう」。

一〇主はまたアロンに言われた、「わたしはイスラエルの人々の、すべての聖なる供え物で、わたしにささげる物の一部をあなたに与える。すなわち、わたしはこれをあなたと、あなたの子たちに、その分け前として与え、永久に受くべき分とする。九いと聖なる供え物のうち、火で焼かず、あなたに帰すべきものは次のとおりである。すなわち、わたしにささげるすべての供え物、素祭、罪祭、愆祭はみな、いと聖なる物であって、あなたがたの子たちに帰するであろう。一〇いと聖なる所で、それを食べなければならない。男子はみな、それを食べる

ことができる。それはあなたに帰すべき聖なる物である。二またあなたに帰すべきものはこれである。すなわち、イスラエルの人々のささげる供え物のうち、すべて揺祭とするものであつて、これをあなたとあなたのむすこ娘に与えて、永久に受くべき分とする。あなたの家の者のうち、清い者はみな、これを食ふことができる。三すべて油の最もよい物、およびすべて新しいぶどう酒と、穀物の最もよい物など、人々が主にささげる初穂をあなたに与える。四国のすべての産物の初物で、人々が主のもとに携えてきたものは、あなたに帰するであらう。あなたの家の者のうち、清い者はみな、これを食ふことができる。五すべて肉なる者のういごであつて、主にささげられる者はみな、人でも獣でも、あなたに帰する。ただし、人のういごは必ずあがなければならぬ。また汚れた獣のういごも、あがなければならぬ。六人のういごは生後一か月で、あがなければならぬ。七そのあがない金はあなたの値積りにより、聖所のシケルにしたがつて、銀五シケルでなければならぬ。一シケルは二十ゲラである。モしかし、牛のういご、羊のういご、やぎのういごは、あがなくてはならぬ。これは聖なるものである。その血を祭壇に注ぎかけ、その脂肪を焼いて火祭とし、香ばしいかおりとして、主にささげなければならぬ。二八その肉はあなたに帰する。そ

れは揺祭の胸や右のものと同じく、あなたに帰する。一九イスラエルの人々が、主にささげる聖なる供え物はみな、あなたとあなたのむすこ娘とに与えて、永久に受ける分とする。これは主の前にあつて、あなたとあなたの子孫とに対し、永遠に変わぬ塩の契約である。二〇主はまたアロンに言われた、「あなたはイスラエルの人々の地のうちに、嗣業をもつてはならない。また彼らのうちに、わたしがあなたに分であり、あなたの嗣業である。

三わたしはレビの子孫にはイスラエルにおいて、すべて十分の一を嗣業として与え、その働き、すなわち、会見の幕屋の働きに報いる。四イスラエルの人々は、かかねて会見の幕屋に近づいてはならない。罪を得て死ななためである。五レビびとだけが会見の幕屋の働きをしなければならぬ。彼らがその罪を負うであらう。彼らがイスラエルの人々のうちに、嗣業の地を持たないことをもつて、あなたがたの代々ながく守るべき定めとしなければならぬ。六わたしはイスラエルの人々が供え物として主にささげる十分の一を、レビびとに嗣業として与えた。それで『彼らはイスラエルの人々のうちに、嗣業の地を持つてはならない』と、わたしは彼らに言ったのである。

二五主はモーセに言われた、二六「レビびとに言いなさい、『わたしがイスラエルの人々から取つて、嗣業として与

える十分の一を受ける時、あなたがたはその十分の一の十分の一を、主にささげなければならぬ。二七あなたがたのささげ物は、打ち場からの穀物や、酒ぶねからのぶどう酒と同じように見なされるであらう。二八そのようにあなたがたもまた、イスラエルの人々から受けるすべての十分の一の物のうちから、主に供え物をささげ、主にささげたその供え物を、祭司アロンに与えなければならぬ。二九あなたがたの受けるすべての贈物のうちから、その良いところ、すなわち、聖なる部分を取って、ことごとく供え物として、主にささげなければならぬ。三〇あなたはまた彼らに言いなさい、『あなたがたが、そのうちから良いところを取ってささげる時、その残りの部分はレビびとには、打ち場の産物や、酒ぶねの産物と同じように見なされるであらう。三一あなたがたと、あなたがたの家族とは、どこでそれを食べてもよい。これは会見の幕屋でああなたがたがする働きの報酬である。三二あなたがたが、その良いところをささげるときは、それによって、あなたがたは罪を負わないであらう。あなたがたはイスラエルの人々の聖なる供え物を汚してはならない。死をまぬかれるためである』。

**第一章** 主はモーセとアロンに言われた、三主の命じられた律法の定めは次のとおりである。すなわち『イスラエルの人々に告げて、完全で、傷がなく、まだくびきを負ったことのない赤い雌牛を、あなたのもとに

引いてこさせ、三これを祭司エレアザルにわたして、宿営の外にひき出させ、彼の前でこれをほふらせなければならぬ。四そして祭司エレアザルは、指をもってその血を取り、会見の幕屋の表に向かつて、その血を七たびふりかけなければならぬ。五ついでその雌牛を自分の目の前で焼かせ、その皮と肉と血とは、その汚物と共に焼かなければならぬ。六そして祭司は香柏の木と、ヒソブと、緋の糸とを取って雌牛の燃えているなかに投げ入れなければならぬ。七そして祭司は衣服を洗い、水に身をすすいで後、宿営に、はいることができる。ただ祭司は夕まで汚れる。八またその雌牛を焼いた者も水で衣服を洗い、水に身をすすがなければならぬ。彼も夕まで汚れる。九それから身の清い者がひとり、その雌牛の灰を集め、宿営の外の清い所にたくわえておかなければならぬ。これはイスラエルの人々の会衆のため、汚れを清める水をつくるために備えるものであって、罪を清めるものである。一〇その雌牛の灰を集めた者は衣服を洗わなければならぬ。その人は夕まで汚れる。これはイスラエルの人々と、そのうちに宿っている他国人との、永久に守るべき定めとしなければならぬ。

二すべて人の死体に触れる者は、七日のあいだ汚れる。三その人は三日目と七日目とに、この灰の水をもつて身を清めなければならぬ。そうすれば清くなるであらう。しかし、もし三日目と七日目とに、身を清めない



ならば、清くならないであろう。三すべて死人の死体に触れて、身を清めない者は主の幕屋を汚す者で、その人はイスラエルから断たれなければならない。汚れを清める水がその身に注ぎかけられないゆえ、その人は清くならず、その汚れは、なお、その身にあるからである。

二一人が天幕の中で死んだ時に用いる律法は次のとおりである。すなわち、すべてその天幕にはいった者、およびすべてその天幕にいた者は七日のあいだ汚れる。二五ふたで上をおおわない器はみな汚れる。二六つるぎで殺された者、または死んだ者、または人の骨、または墓などに、野外で触れる者は皆、七日のあいだ汚れる。二七汚れた者があつた時には、罪を清める焼いた雌牛の灰を取って器に入れ、流れの水をこれに加え、一人身の清い者がひとりヒツプを取って、その水に浸し、これをその天幕と、すべての器と、そこにいた人々と、骨、あるいは殺された者、あるいは死んだ者、あるいは墓などに触れた者とにかくけなければならぬ。二九すなわちその身の清い人は三日目と七日目とにその汚れたものに、それをふりかけなければならぬ。そして七日目にその人は身を清め、衣服を洗い、水に身をすすがなければならぬ。そうすれば夕になつて清くなるであろう。

三しかし、汚れて身を清めない人は主の聖所を汚す者で、その人は会衆のうちから断たれなければならない。汚れを清める水がその身に注ぎかけられないゆえ、その

人は汚れているからである。三これは彼らの永久に守るべき定めとしなければならない。すなわち汚れを清める水をふりかけた者は衣服を洗わなければならない。また汚れを清める水に触れた者も夕まで汚れるであろう。三すべて汚れた人の触れる物は汚れる。またそれに触れる人も夕まで汚れるであろう。

第二〇章 イスラエルの人々の全会衆は正月になつてチンの荒野にはいった。そして民はカデシにとどまつたが、ミリアムがそこで死んだので、彼女をそこに葬つた。

二そのころ会衆は水が得られなかつたため、相集まつてモーセとアロンに迫つた。三すなわち民はモーセと争つて言つた、「さきにわれわれの兄弟たちが主の前に死んだ時、われわれも死んでいたらよかつたものを。四なぜ、あなたがたは主の会衆をこの荒野に導いて、われわれと、われわれの家畜とを、ここで死なせようとするのですか。五どうしてあなたがたはわれわれをエジプトから上らせて、この悪い所に導き入れたのですか。ここには種をまく所もなく、いちじくもなく、ぶどうもなく、さくろもなく、また飲む水もありません。六そこでモーセとアロンは会衆の前を去り、会見の幕屋の入口へ行つてひれ伏した。すると主の栄光が彼らに現れ、七主はモーセに言われた、八「あなたは、つえをとり、あなたの兄弟アロンと共に会衆を集め、その目の前で岩に命じて

水を出させなさい。こうしてあなたは彼らのために岩から水を出して、会衆とその家畜に飲ませなさい。九 モーセは命じられたように主の前にあるつえを取った。

一〇 モーセはアロンと共に会衆を岩の前に集めて彼らに言った、「そむく人たちは、聞きなさい。われわれがあなたのためにこの岩から水を出さなければならぬのであるうか。一一 モーセは手をあげ、ついで岩を二度打つと、水がたくさんわき出たので、会衆とその家畜はともに飲んだ。一二 そのとき主はモーセとアロンに言われた、「あなたがたはわたしを信じないで、イスラエルの人の前にわたしの聖なることを現さなかったから、この会衆をわたしが彼らに与えた地に導き入れることができないであろう。一三 これがメリバの水であつて、イスラエルの人々はここで主と争つたが、主は自分の聖なることを彼らのうちに現された。

一四 さて、モーセはカデシからエドムの王に使者をつかわして言った、「あなたの兄弟、イスラエルはこう申します、『あなたはわたしたちが遭遇したすべての患難をご存じです。一五 わたしたちの先祖はエジプトに下つて行つて、わたしたちは年久しくエジプトに住んでいました。エジプトびとがわたしたちと、わたしたちの先祖を悩ましたので、一六 わたしたちが主に呼ばわったとき、主はわたしたちの声を聞き、ひとりの天の使をつかわして、わたしたちをエジプトから導き出されました。わたしたち

は今あなたの領地の端にあるカデシの町にあります。一七 どうぞ、わたしたちにあなたの国を通らせてください。わたしたちは畑もぶどう畑も通りません。また井戸の水も飲みません。ただ王の大路を通り、あなたの領地を過ぎるまでは右にも左にも曲りません。一八 しかし、エドムはモーセに言った、「あなたはわたしの領地をとつてはなりません。さもないと、わたしはつるぎをもつて出て、あなたに立ちむかうでしょう。一九 イスラエルの人々はエドムに言った、「わたしたちは大路を通ります。もしわたしたちとわたしたちの家畜とが、あなたの水を飲むことがあれば、その価を払います。わたしは徒歩で通るだけです。何事もないでしょう。二〇 しかし、エドムは「あなたは通ることはなりません」と言つて、多くの民と強い軍勢とを率ひ、出て、これに立ちむかつてきた。二一 このようにエドムはイスラエルに、その領地を通ることを拒んだので、イスラエルはエドムからほかに向かつた。

二二 こうしてイスラエルの人々の全会衆はカデシから進んでホル山に着いた。二三 主はエドムの国境に近いホル山で、モーセとアロンに言われた、二四 アロンはその民に連ならなければならない。彼はわたしがイスラエルの人に与えた地に、はいることができない。これはメリバの水で、あなたがたがわたしの言葉にそむいたからである。二五 あなたはアロンとその子エレアザルを連れてホル

山に登り、二六アロンに衣服を脱がせて、それをその子エ  
レアザルに着せなさい。アロンはそのところで死んで、  
その民に連なるであろう。二七モーセは主が命じられた  
とおりにし、連れだつて全会衆の目の前でホル山に登つ  
た。二八そしてモーセはアロンに衣服を脱がせ、それをそ  
の子エレアザルに着せた。アロンはその山の頂で死ん  
だ。そしてモーセとエレアザルは山から下つたが、二九全  
会衆がアロンの死んだのを見たとき、イスラエルの全  
家は三十日の間アロンのために泣いた。

## 第二章 一時にネゲブに住んでいたカナンびと

アラデの王は、イスラエルがアタリムの道をとつて来  
ると聞いて、イスラエルを攻撃し、そのうちの数人を捕  
虜にした。三〇そこでイスラエルは主に誓いを立てて言っ  
た、「もし、あなたがこの民をわたしの手にわたしてくだ  
さるならば、わたしはその町々をことごとく滅ぼしま  
しょう。三二主はイスラエルの言葉を聞きいれ、カナンび  
とをわたされたので、イスラエルはそのカナンびとと  
その町々とをことごとく滅ぼした。それでその所の名は  
ホルマと呼ばれた。

四民はホル山から進み、紅海の道をとつてエドムの  
地を回ろうとしたが、民はその道に堪えがたくなった。  
五民は神とモーセとにむかい、つぶやいて言った、「あな  
たがたはなぜわたしたちをエジプトから導き上つて、荒  
野で死なせようとするのですか。ここには食物もなく、

水もありません。わたしたちはこの粗悪な食物はいやに  
なりました。六そこで主は、火のへびを民のうちに送ら  
れた。へびは民をかんだので、イスラエルの民のうち、  
多くのものが死んだ。七民はモーセのもとに行つて言っ  
た、「わたしたちは主にむかい、またあなたにむかい、つ  
ぶやいて罪を犯しました。どうぞへびをわたしたちから  
取り去られるように主に祈ってください。モーセは民  
のために祈つた。八そこで主はモーセに言われた、「火の  
へびを造つて、それをさおの上に掛けなさい。すべて  
のかまれた者が仰いで、それを見るならば生きるであろ  
う。九モーセは青銅で一つのへびを造り、それをさおの  
上に掛けて置いた。すべてへびにかまれた者はその青銅  
のへびを仰いで見て生きた。

一〇イスラエルの人々は道を進んでオボテに宿営した。  
二またオボテから進んで東の方、モアブの前にある荒野  
において、イエアバリムに宿営した。三またそこから進  
んでゼレデの谷に宿営し、四さらにそこから進んでアル  
ノン川のかたに宿営した。アルノン川はアモリびとの  
境から延び広がる荒野を流れるもので、モアブとアモリ  
びとの間にあつて、モアブの境をなしていた。五それ  
ゆえに、「主の戦いの書」にこう言われている。

「スバのワヘブ、

アルノンの谷々、

一五谷々の斜面、



アルの町まで傾き、  
モアブの境に寄りかかる。

二六 彼らはそこからベエルへ進んで行った。これは主が  
モーセにむかつて、「民を集めよ。わたしはかれらに水を  
与えるであろう」と言われた井戸である。二七 その時イス  
ラエルはこの歌をうたった。

「井戸の水よ、わきあがれ、

人々よ、この井戸のために歌え、

二八 笏とつえとをもって

つかさたちがこの井戸を掘り、  
民のおさたちがこれを掘った」。

そして彼らは荒野からマツタナに進み、一九 マツタナから  
ナハリエルに、ナハリエルからバモテに、二〇 バモテから  
モアブの野にある谷に行き、荒野を見おろすビスガの頂  
に着いた。

三〇 ここでイスラエルはアモリびとの王シホンに使者を  
つかわして言わせた、三二「わたしにあなたの国を通らせ  
てください。わたしたちは畑にもぶどう畑にも、はいり  
ません。また井戸の水も飲みません。わたしたちはあな  
たの領地を通り過ぎるまで、ただ王の大路を通ります」。  
三三 しかし、シホンはイスラエルに自分の領地を通ること  
を許さなかった。そしてシホンは民をことごとく集め、  
荒野に出て、イスラエルを攻めようとし、ヤハズにきて  
イスラエルと戦った。三四 イスラエルは、やいばで彼を撃

ちやぶり、アルノンからヤボクまで彼の地を占領し、ア  
ンモンびとの境に及んだ。ヤゼルはアンモンびとの境だ  
からである。三五 こうしてイスラエルはこれらの町々を  
ことごとく取った。そしてイスラエルはアモリびとのす  
べての町々に住み、ヘシボンとそれに附属するすべての  
村々にいた。二六 ヘシボンはアモリびとの王シホンの都で  
あって、シホンはモアブの以前の王と戦って、彼の地を  
アルノンまで、ことごとくその手から奪い取ったのであ  
る。二七 それゆえに歌にうたわれている。

「人々よ、ヘシボンにきたれ、

シホンの町を築き建てよ。

二八 ヘシボンから火が燃え出し、

シホンの都から炎が出て、

モアブのアルを焼き尽し、

アルノンの高地の君たちを滅ぼしたからだ。

二九 モアブよ、お前はわざわいなるかな、

ケモシの民よ、お前は滅ぼされるであろう。

彼は、むすこらを逃げ去らせ、

娘らをアモリびとの王シホンの捕虜とならせた。

三〇 彼らの子らは滅び去った、

ヘシボンからデボンまで。

われわれは荒した、

火はついてメデバに及んだ」。

三二 こうしてイスラエルはアモリびとの地に住んだが、

三 モーセはまた人をつかわしてヤゼルを探らせ、ついにその村々を取って、そこにいたアモリびとを追ひ出し、三 転じてバシヤンの道に上って行つたが、バシヤンの王オグは、その民をことごとく率ひ、エデレイで戦おうとして出迎えた。三 主はモーセに言われた、「彼を恐れてはならない。わたしは彼とその民とその地とを、ことごとくあなたの手にわたす。あなたはヘシボンに住んでいたアモリびとの王シホンにしたように彼にもするであらう。三 五 そこで彼とその子とすべての民とを、ひとり残らず撃ち殺して、その地を占領した。

第二二章 一 さて、イスラエルの人々はまた道を進んで、エリコに近いヨルダンのかたのモアブの平野に宿営した。ニツポルの子バラクはイスラエルがアモリびとにしたすべての事を見たので、三 モアブは大いにイスラエルの民を恐れた。その数が多かったためである。モアブはイスラエルの人々をひじょうに恐れたので、四 ミデアンの長老たちに言った、「この群衆は牛が野の草をなめつくすように、われわれの周囲の物をみな、なめつくそうとしている」。ニツポルの子バラクはこの時モアブの王であつた。五 彼はアンモンびとの国のユフラテ川のほとりにあるベトルに使者をつかわし、ベオルの子バラムを招こうとして言させた、「エジプトから出てきた民があり、地のおもてをおおつてわたしの前にいます。六 どうぞ今きてわたしのためにこの民をのろつてくださ

い。彼らはわたしよりも強いのです。そうしてくだされば、われわれは彼らを撃つて、この国から追ひ払うことができるかもしれません。あなたが祝福する者は祝福され、あなたがのろう者はのろわれることをわたしは知っています」。

七 モアブの長老たちとミデアンの長老たちは占いの礼物を手にして出発し、バラムのもとへ行つて、バラクの言葉を告げた。八 バラムは彼らに言った、「今夜ここに泊まりなさい。主がわたしに告げられるとおりに、あなたがたに返答しましょう」。それでモアブのつかさたちはバラムのもとにとどまつた。九 ときに神はバラムに臨んで言われた、「あなたのところにいるこの人々はだれですか」。一〇 バラムは神に言った、「モアブの王ニツポルの子バラクが、わたしに人をよこして言いました。一一 エジプトから出てきた民があり、地のおもてをおおっています。どうぞ今きてわたしのために彼らをのろつてください。そうすればわたしは戦つて、彼らを追ひ払うことができるかもしれません」。一二 神はバラムに言われた、「あなたは彼らと一緒に行くことはならない。またその民をのろつてはならない。彼らは祝福された者だからである」。一三 明くる朝起きて、バラムはバラクのつかさたちに言った、「あなたがたは国にお帰りなさい。主はわたしがあなたがたと一緒に行くことを、お許しになりません」。一四 モアブのつかさたちは立つてバラクのもとに

行つて言つた、「バラムはわたしたちと一緒に来ることを承知しません」。

一五 バラクはまた前の者よりも身分の高いつかさたちを前よりも多くつかわした。「彼らはバラムのところへ行つて言つた、「チツポルの子バラクはこう申します、『どんな妨げをも顧みず、どうぞわたしのところへおいでください。』わたしはあなたを大いに優遇します。そしてあなたがわたしに言われる事はなんでもいたします。どうぞきてわたしのためにこの民をのろつてください」。

一六 しかし、バラムはバラクの家来たちに答えた、「たとひバラクがその家に満ちるほどの金銀をわたしに与えようと、事の大小を問わず、わたしの神、主の言葉を越えては何もすることができません。『九 それで、どうぞ、あなたも今夜ここにとどまつて、主がこの上、わたしになんと仰せられるかを確かめさせてください』。二〇 夜になり、神はバラムに臨んで言われた、「この人々はあなたを招きにくたのだから、立つてこの人々と一緒に行きなさい。ただしわたしが告げることだけを行わなければならぬ」。

二一 三 明くる朝起きてバラムは、ろばにくらをおき、モアブのつかさたちと一緒にに行った。二二 しかるに神は彼が行つたために怒りを発せられ、主の使は彼を妨げようとして、道に立ちふさがつていた。バラムは、ろばに乗り、そのしもべふたりも彼と共にいたが、二三 ろばは主の使が、

手に抜き身のつるぎをもって、道に立ちふさがっているのを見、道をそれて畑にはいったので、バラムは、ろばを打つて道に返そうとした。二四 しかるに主の使はまたどう畑の間の狭い道に立ちふさがつていた。道の両側には石がきがあつた。二五 ろばは主の使を見て、石がきにすり寄り、バラムの足を石がきに押しつけたので、バラムは、また、ろばを打つた。二六 主の使はまた先に進んで、狭い所に立ちふさがつていた。そこは右にも左にも、曲る道がなかつたので、二七 ろばは主の使を見てバラムの下に伏した。そこでバラムは怒りを発し、つえでろばを打つた。二八 すると、主が、ろばの口を開かれたので、ろばはバラムにむかつて言つた、「わたしがあなたに何をしたというのですか。あなたは三度もわたしを打つたのです」。二九 バラムは、ろばに言つた、「お前がわたしを侮つたからだ。わたしの手につるぎがあれば、いま、お前を殺してしまふのだが」。三〇 ろばはまたバラムに言つた、「わたしはあなたが、きょうまで長いあいだ乗られたろばではありませんか。わたしはいつでも、あなたにこのようにしたでしょうか」。バラムは言つた、「いや、しなかつた」。

三一 このとき主がバラムの目を開かれたので、彼は主の使が手に抜き身のつるぎをもって、道に立ちふさがつてゐるのを見て、頭を垂れてひれ伏した。三二 主の使は彼に言つた、「なぜあなたは三度もろばを打つたのか。あなた



が誤った道を行くので、わたしはあなたを妨げようとして出てきたのだ。三ろばはわたしを見て三度も身を巡らしてわたしを避けた。もし、ろばが身を巡らしてわたしを避けなかったなら、わたしはきっと今あなたを殺して、ろばを生かしておいたであろう。四バラムは主の使に言った、「わたしは罪を犯しました。あなたがわたしをよめようとして、道に立ちふさがっておられるのを、わたしは知りませんでした。それで今、もし、お気に召さないのであれば、わたしは帰りましょう。五主の使はバラムに言った、「この人々と一緒に行きなさい。ただし、わたしが告げることを述べなければならぬ」。こうしてバラムはバラクのつかさたちと一緒にいった。六さて、バラクはバラムがきたと聞いて、国境のアルノン川のほとり、国境の一端にあるモアブの町まで出ていって迎えた。七そしてバラクはバラムに言った、「わたしは人をつかわしてあなたを招いたではありませんか。あなたはなぜわたしのところへきませんでしたか。わたしは実際あなたを優遇することができないでしようか。八バラムはバラクに言った、「ごらんない。わたしはあなたのとこにきています。しかし、今、何事かをみずから言うことができましょうか。わたしはただ神がわたしの口に授けられることを述べなければなりません。九こうしてバラムはバラクと一緒にいき、キリアテ・ホヰテにきたとき、四〇バラクは牛と羊とをほふつて、

バラムおよび彼と共にいたバラムを連れてきたつかさたちに贈った。

四二明くる朝バラクはバラムを伴ってバモテ・パアルにのぼり、そこからイスラエルの民の宿営の一端をながめさせた。

第二三章 エーバラムはバラクに言った、「わたしの

ために、ここに七つの祭壇を築き、七頭の雄牛と七頭の雄羊とを整えなさい。二バラクはバラムの言ったとおりにした。そしてバラクとバラムとは、その祭壇ごとに雄牛一頭と雄羊一頭とをささげた。三バラムはバラクに言った、「あなたは燔祭のかたわらに立っていてください。その間にわたしは行ってきます。主はたぶんわたしに会ってくださるでしょう。そして、主がわたしに示される事はなんでもあなたに告げましょう。こうして彼は一つのはげ山に登った。四神がバラムに会われたので、バラムは神に言った、「わたしは七つの祭壇を設け、祭壇ごとに雄牛一頭と雄羊一頭とをささげました。五主はバラムの口に言葉を授けて言われた、「バラクのもとに帰ってこよう言いなさい。六彼がバラクのもとに帰ってみると、バラクはモアブのすべてのつかさたちと共に燔祭のかたわらに立っていた。七バラムはこの託宣を述べた。

「バラクはわたしをアラムから招き寄せ、モアブの王はわたしを東の山から招き寄せて言う、『きてわたしのためにヤコブをのろえ、

きてイスラエルをのろえ』と。八神ののろわぬ者を、わたしはどうしてのろえよう。主ののろわぬ者を、わたしはどうしてのろえよう。九岩の頂からながめ、丘の上から見たが、これはひとり離れて住む民、もろもろの国民のうちに並ぶものはない。

一〇だれがヤコブの群衆を数え、イスラエルの無数の民を数え得よう。

わたしは義人のように死に、わたしの終りは彼らの終りのようでありたい。

二そこでバラクはバラムに言った、「あなたはわたしに何をしますか。わたしは敵をのろうために、あなたを招いたのに、あなたはかえって敵を祝福するばかりです。三バラムは答えた、「わたしは、主がわたしの口に授けられる事だけを語るように注意すべきではないでしょうか」。

四バラクは彼に言った、「わたしと一緒にほかのところへ行つて、そこから彼らをのろってください。あなたはただ彼らの一端を見るだけで、全体を見ることはできないでしょうが、そこからわたしのために彼らをのろってください」。五そして彼はバラムを連れてゾビムの野に行き、ピスガの頂に登って、そこに七つの祭壇を築き、祭壇ごとに雄牛一頭と雄羊一頭とをささげた。六ときにバ

ラムはバラクに言った、「あなたはここで、燔祭のかたわらに立っていてください。わたしは向こうへ行つて、主に伺いますから」。七主はバラムに臨み、言葉を口に授けて言われた、「バラクのもとに帰つてこう言いなさい」。八彼がバラクのところへ行つて見ると、バラクは燔祭のかたわらに立ち、モアブのつかさたちも共にいた。バラクはバラムに言った、「主はなんと言われましたか」。

九そこでバラムはまたこの託宣を述べた。

一〇「バラクよ、立つて聞け、一チツボルの子よ、わたしに耳を傾けよ。二神は人のように偽ることはなく、また人の子のように悔いることもない。

三言つたことで、行わないことがあるうか、語つたことで、しとげないことがあるうか。

四祝福せよとの命をわたしはうけた、すでに神が祝福されたものを、わたしは変えることができない。

五だれもヤコブのうちに災のあるのを見ない、またイスラエルのうちに悩みのあるのを見ない。

六彼らの神、主が共にいまし、七王をたてる声がその中に聞える。

八三神は彼らをエジプトから導き出された、九彼らは野牛の角のようだ。

一〇三ヤコブには魔術がなく、

イスラエルには占いが無い。  
神がそのなすところを時に応じてヤコブに告げ、

イスラエルに示されるからだ。

二四 見よ、この民は雌じしのように立ち上がり、  
雄じしのように身を起す。

これはその獲物を食らい、

その殺した者の血を飲むまでは身を横たえない。

二五 バラムはバラムに言った、「あなたは彼らをのろうこ

とも祝福することも、やめてください。」 二六 バラムは答

えてバラクに言った、「主の言われることは、なんでもし

なければならぬと、わたしはあなたに告げませんでし

たか。」 二七 バラムはバラムに言った、「どうぞ、おいでく

ださい。わたしはあなたをほかの所へお連れしましよ

う。神はあなたがそこからわたしのために彼らをのろう

ことを許されるかもしれませんが。」 二八 そしてバラクはバ

ラムを連れて、荒野を見おろすベオルの頂に行った。

二九 バラムはバラクに言った、「わたしのためにここに七つ

の祭壇を築き、雄牛七頭と、雄羊七頭とを整えなさい。」

三〇 バラムはバラムの言ったとおりにし、その祭壇ごとに

雄牛一頭と雄羊一頭とをささげた。

第二四章 バラムはイスラエルを祝福すること

が主の心にならうのを見たので、今度はいつものように

行って魔術を求めることをせず、顔を荒野にむけ、二目

を上げて、イスラエルがそれぞれ部族にしたがって宿営

しているのを見た。その時、神の霊が臨んだので、  
はこの託宣を述べた。

「ベオルの子バラムの言葉、

目を閉じた人の言葉、

神の言葉を聞く者、

全能者の幻を見る者、

倒れ伏して、目の開かれた者の言葉。

五 ヤコブよ、あなたの天幕は麗しい、

イスラエルよ、あなたのすまいは、麗しい。

六 それは遠くひろがる谷々のよう、

川べの園のよう、

主が植えられた沈香樹のよう、

流れのほとりの香柏のようだ。

七 水は彼らのかめからあふれ、

彼らの種は水の潤いに育つであろう。

彼らの王はアガグよりも高くなり、

彼らの国はあがめられるであろう。

八 神は彼らをエジプトから導き出された、

彼らは野牛の角のようだ。

彼らは敵なる国々の民を滅ぼし、

その骨を砕き、

矢をもって突き通すであろう。

九 彼らは雄じしのように身をかめ、

雌じしのように伏している。



「だれが彼らを起しえよう。あなたが祝福する者は祝福され、あなたがのろむ者はのろまれるであろう。そこでバラクはバラムにむかって怒りを発し、手を打ち鳴らした。そしてバラクはバラムに言った、「敵をのろうために招いたのに、あなたはかえって三度までも彼らを祝福した。それで今あなたは急いで自分のところへ帰ってください。わたしはあなたを大いに優遇しようと思った。しかし、主はその優遇をあなたに得させないようにされました」。バラムはバラクに言った、「わたしはあなたがつかわされた使者たちに言ったではありませんか、『たとひバラクがその家に満ちるほどの金銀をわたしに与えようと、主の言葉を越えて心のままに善も悪も行ふことはできません。わたしは主の言われることを述べるだけです』。わたしは今わたしの民のところへ帰って行きます。それでわたしはこの民が後の日にあなたの民にどんなことをするかをお知らせしましょう。』」そしてこの託宣を述べた。

「ベオルの子バラムの言葉、

目を閉じた人の言葉、

「六神の言葉を聞く者、

いと高き者の知識をもつ者、

全能者の幻を見、

倒れ伏して、目の開かれた者の言葉。」

「七わたしは彼を見る、しかし今ではない。

わたしは彼を望み見る、しかし近くではない。

ヤコブから一つの星が出、

イスラエルから一本のつえが起り、

モアブのこめかみと、

セツのすべての子らの脳天を撃つであろう。

「八敵のエドムは領地となり、

セイルもまた領地となるであろう。

そしてイスラエルは勝利を得るであろう。

「九権を執る者がヤコブから出、

生き残った者を町から断ち滅ぼすであろう。」

「二〇バラムはまたアマレクを望み見て、この託宣を述べた。

「アマレクは諸国民のうちの最初のもの、

しかし、ついに滅び去るであろう。」

「二一またケニびとを望み見てこの託宣を述べた。

「お前のすみかは堅固だ、

岩に、お前は巢をつくっている。

「二二しかし、カインは滅ぼされるであろう。

アシュルはいつまでお前を捕虜とするであろうか。」

「二三彼はまたこの託宣を述べた。

「ああ、神が定められた以上、

だれが生き延びることができよう。

「二四キツテムの海岸から舟がきて、

アシュルを攻めなやまし、

エベルを攻めなやますであろう。  
そして彼もまたついに滅び去るであろう。」

二五 こうしてバラムは立ち上がつて、自分のところへ帰つていった。バラクもまた立ち去った。

第二十五章 イスラエルはシツテムにとどまつて

いたが、民はモアブの娘たちと、みだらな事をし始めた。二その娘たちが神々に犠牲をささげる時に民を招くと、民は一緒にそれを食べ、娘たちの神々を拜んだ。三イスラエルはこうしてベオルのバアルにつきしたがったので、主はイスラエルにむかつて怒りを発せられた。四そして主はモーセに言われた、「民の首領をことごとく捕え、日のあるうちにその人々を主の前で処刑しなさい。そうすれば主の怒りはイスラエルを離れるであろう。五モーセはイスラエルのさばきびとたちにむかつて言った、「あなたがたはおのおの、配下の者どもでベオルのバアルにつきしたがったものを殺しなさい」。

六モーセとイスラエルの人々の全会衆とが会見の幕屋の入口で泣いていた時、彼らの目の前で、ひとりのイスラエルびとが、その兄弟たちの中に、ひとりのミデアンの女を連れてきた。祭司アロンの子なるエレアザルの子ピネハスはこれを見て、会衆のうちから立ち上がり、やりを手に執り、八そのイスラエルの人の後を追つて、奥の間に入り、そのイスラエルの人を突き、またその女の腹を突き通して、ふたりを殺した。こうして疫病がイス

ラエルの人々に及ぶのがやんだ。九しかし、その疫病で死んだ者は二万四千人であつた。

一〇主はモーセに言われた、「一祭司アロンの子なるエレアザルの子ピネハスは自分のことのように、わたしの憤激をイスラエルの人々のうちに表わし、わたしの怒りをそのうちから取り去つたので、わたしは憤激して、イスラエルの人々を滅ぼすことをしなかった。三このゆえにあなたは言いなさい、『わたしは平和の契約を彼に授ける。三これは彼とその後の子孫に永遠の祭司職の契約となるであろう。彼はその神のために熱心であつて、イスラエルの人々のために罪のあがないをしたからである』と」。

二四ミデアンの女と共に殺されたイスラエルの人の名はジムリといい、サルの子で、シメオンびとのうちの一族のつかさであつた。二五またその殺されたミデアンの女の名はコズビといい、ツルの娘であつた。ツルはミデアンの民の一族のかしらであつた。

二六主はまたモーセに言われた、「一七ミデアンびとを打ち悩ましなさい。一八彼らはたくらみをもって、あなたがたを悩まし、ベオルの事と、彼らの姉妹、ミデアンのつかさの娘コズビ、すなわちベオルの事により、疫病の起つた日に殺された女の事とによって、あなたがたを惑わしたからである」。

第二十六章 一疫病の後、主はモーセと祭司アロン

の子エレアザルと言われた、三イスラエルの人々の全会衆の総数をその父祖の家にしたがって調べ、イスラエルにおいて、すべて戦争に出ることのできる二十歳以上の者を数えなさい。三そこでモーセと祭司エレアザルとは、エリコに近いヨルダンのほとりにあるモアブの平野で彼らに言った、四主がモーセに命じられたように、あなたがたのうちの二十歳以上の者を数えなさい。エジプトの地から出てきたイスラエルの人々は次のとおりである。

五ルベンはイスラエルの長子である。ルベンの子孫は、ヘノクからヘノクびとの氏族が出、バルからバルびとの氏族が出、六ヘズロンからヘズロンびとの氏族が出、カルミからカルミびとの氏族が出た。七これらはルベンびとの氏族であつて、数えられた者は四万三千七百三十人であつた。八またパルの子はエリアブ。九エリアブの子はネムエル、ダタン、アビラムである。このダタンとアビラムとは会衆のうちから選出された者で、コラのともがらと共にモーセとアロンとに逆らつて主と争つた時、一〇地は口を開いて彼らとコラとをのみ、その仲間も死んだ。その時二百五十人が火に焼き滅ぼされて、戒めの鏡となつた。二ただし、コラの子たちは死ななかつた。

三シメオンの子孫は、その氏族によれば、ネムエルからネムエルびとの氏族が出、ヤミンからヤミンびとの氏族が出、ヤキンからヤキンびとの氏族が出、四ゼラから

ゼラびとの氏族が出、シャウルからシャウルびとの氏族が出た。四これらはシメオンびとの氏族であつて、数えられた者は二万二千二百人であつた。

五ガドの子孫は、その氏族によれば、ゼボンからゼボンびとの氏族が出、ハギからハギびとの氏族が出、シユニからシユニびとの氏族が出、六オズニからオズニびとの氏族が出、エリからエリびとの氏族が出、七アロドからアロドびとの氏族が出、アレリからアレリびとの氏族が出た。八これらはガドの子孫の氏族であつて、数えられた者は四万五百人であつた。

九ユダの子らはエルとオナンとであつて、エルとオナンとはカナンの地で死んだ。一〇ユダの子孫は、その氏族によれば、シラからシラびとの氏族が出、ペレヅからペレヅびとの氏族が出、ゼラからゼラびとの氏族が出た。一〇ベレヅの子孫は、ヘズロンからヘズロンびとの氏族が出、ハムルからハムルびとの氏族が出た。三これらはユダの氏族であつて、数えられた者は七万六千五百人であつた。

三三イッサカルの子孫は、その氏族によれば、トラからトラびとの氏族が出、プワからプワびとの氏族が出、四ヤシユブからヤシユブびとの氏族が出、シムロンからシムロンびとの氏族が出た。五これらはイッサカルの子孫であつて、数えられた者は六万四千三百人であつた。

六ゼブルンの子孫は、その氏族によれば、セレデから



セレデびとの氏族が出、エロンからエロンびとの氏族が出、ヤリエルからヤリエルびとの氏族が出た。二七これらはゼブルンびとの氏族であつて、数えられた者は六万五百人であつた。

二八ヨセフの子らは、その氏族によれば、マナセとエフライムとであつて、二九マナセの子孫は、マキルからマキルびとの氏族が出た。マキルからギレアデが生れ、ギレアデからギレアデびとの氏族が出た。三〇ギレアデの子孫は次のとおりである。イエゼルからイエゼルびとの氏族が出、ヘレクからヘレクびとの氏族が出、ミアスリエルからアスリエルびとの氏族が出、シケムからシケムびとの氏族が出、三二セミダからセミダびとの氏族が出、ヘベルからヘベルびとの氏族が出た。三三ヘベルの子ゼロペハデには男の子がなく、ただ女の子のみで、ゼロペハデの女の子の名はマアラ、ノア、ホグラ、ミルカ、テルザとつた。三四これらはマナセの氏族であつて、数えられた者は五万二千七百人であつた。

三五エフライムの子孫は、その氏族によれば、次のとおりである。シュテラからはシュテラびとの氏族が出、ベケルからベケルびとの氏族が出、タハンからタハンびとの氏族が出た。三六またシュテラの子孫は次のとおりである。すなわちエランからエランびとの氏族が出た。三七これらはエフライムの子孫の氏族であつて、数えられた者は三万二千五百人であつた。以上はヨセフの子孫で、そ

の氏族によるものである。

三八ベニヤミンの子孫は、その氏族によれば、ベラからベラびとの氏族が出、アシベルからアシベルびとの氏族が出、アヒラムからアヒラムびとの氏族が出、三九シユバムからシユバムびとの氏族が出、ホバムからホバムびとの氏族が出た。四〇ベラの子はアルデとナアマンとであつて、アルデからアルデびとの氏族が出、ナアマンからナアマンびとの氏族が出た。四一これらはベニヤミンの子孫であつて、その氏族によれば数えられた者は四万五千六百人であつた。

四二ダンの子孫は、その氏族によれば、次のとおりである。シユハムからシユハムびとの氏族が出た。これらはダンの氏族であつて、その氏族によるものである。四三シユハムびとのすべての氏族のうち、数えられた者は六万四千四百人であつた。

四四アセルの子孫は、その氏族によれば、エムナからエムナびとの氏族が出、エスイからエスイびとの氏族が出、ベリアからベリアびとの氏族が出た。四五ベリアの子孫のうちヘベルからヘベルびとの氏族が出、マルキエルからマルキエルびとの氏族が出た。四六アセルの娘の名はサラとつた。四七これらはアセルの子孫の氏族であつて、数えられた者は五万三千四百人であつた。

四八ナフタリの子孫は、その氏族によれば、ヤジエルからヤジエルびとの氏族が出、グニからグニびとの氏族が

出、四九エゼルからエゼルびとの氏族が出、シレムからシレムびとの氏族が出た。五〇これらはナフタリの氏族であつて、その氏族により、数えられた者は四万五千四百人であつた。

五二これらはイスラエルの子孫の数えられた者であつて、六十万一千七百三十人であつた。

五三主はモーセに言われた、五三「これらの人々に、その名の数にしたがつて地を分け与え、嗣業とさせなさい。五四大きい部族には多くの嗣業を与え、小さい部族には少しの嗣業を与えなさい。すなわち数えられた数にしたがつて、おのおのの部族にその嗣業を与えなければならぬ。五五ただし地は、くじをもつて分け、その父祖の部族の名にしたがつて、それを継がなければならぬ。五六すなわち、くじをもつてその嗣業を大きいものと、小さいものに分けなければならぬ」。

五七レビびとのその氏族にしたがつて数えられた者は次のとおりである。ゲルシオンからゲルシオンびとの氏族が出、コハテからコハテびとの氏族が出、メラリからメラリびとの氏族が出た。五八レビの氏族は次のとおりである。すなわちリブニびとの氏族、ヘbronびとの氏族、マヘリびとの氏族、ムシびとの氏族、コラびとの氏族であつて、コハテからアムラムが生れた。五九アムラムの妻の名はヨケベデといつて、レビの娘である。彼女はエジプトでレビに生れた者であるが、アムラムによつて、

アロンとモーセおよびその姉妹ミリアムを産んだ。六〇アロンにはナダブ、アビウ、エレアザルおよびイタマルが生れた。六一ナダブとアビウは異火を主の前にささげた時に死んだ。六二その数えられた一か月以上のすべての男子は二万三千人であつた。彼らはイスラエルの人々のうちに嗣業を与えられなかつたため、イスラエルの人々のうちに数えられなかつた者である。

六三これらはモーセと祭司エレアザルが、エリコに近いヨルダンのほとりにあるモアブの平野で数えたイスラエルの人々の数である。六四ただしそのうちには、モーセと祭司アロンがシナイの荒野でイスラエルの人々を数えた時に数えられた者はひとりもなかつた。六五それは主がかつて彼らについて「彼らは必ず荒野で死ぬであらう」と言われたからである。それで彼らのうちエフンネのカレブとヌンの子ヨシユアのほか、ひとりも残つた者はなかつた。

第二十七章 「さて、ヨセフの子マナセの氏族のうちのヘベルの子、ゼロベハデの娘たちが訴えてきた。ヘベルはギレアデの子、ギレアデはマキルの子、マキルはマナセの子である。その娘たちは名をマアラ、ノア、ホグラ、ミルカ、テルザといったが、二彼らは会見の幕屋の入口でモーセと、祭司エレアザルと、つかさたちと、全会衆との前に立つて言つた、三わたしたちの父は荒野で死にました。彼は、コラの仲間となつて主に逆らつた

者どもの仲間のうちには加わりませんでした。彼は自分の罪によって死んだのですが、男の子がありませんでした。男の子がないからといって、どうしてわたしたちの父の名がその氏族のうちから削られなければならないのでしようか。わたしたちの父の兄弟と同じように、わたしたちにも所有地を与えてください。」

五 モーセがその事を主の前に述べると、主はモーセに言われた、七「ゼロベハデの娘たちの言うことは正しい。あなたは必ず彼らの父の兄弟たちと同じように、彼らにも嗣業の所有地を与えなければならない。すなわち、その父の嗣業を彼らに渡さなければならない。あなたはイスラエルの人々に言いなさい、『もし人が死んで、男の子がない時は、その嗣業を娘に渡さなければならない。もしまた娘もない時は、その嗣業を兄弟に与えなければならない。もし兄弟もない時は、その嗣業を父の兄弟に与えなければならない。もしまた父に兄弟がない時は、その氏族のうちで彼に最も近い親族にその嗣業を与えて所有させなければならない。』主がモーセに命じられたようにイスラエルの人々は、これをおきての定めとしなければならない。」

三 主はモーセに言われた、「このアバリムの山に登って、わたしがイスラエルの人々に与える地を見なさい。二 あなたはそれを見てから、兄弟アロンのようにその民に加えられるであらう。四 これは会衆がチンの荒野で逆

らい争った時、あなたがたはわたしの命にそむき、あの水のかたわらで彼らの目の前にわたしの聖なることを現さなかったからである。これはチンの荒野にあるカデシのメリバの水である。五 モーセは主に言った、六「すべての肉なるものの命の神、主よ、どうぞ、この会衆の上にひとりの人を立て、七 彼らの前に出入りし、彼らを導き出し、彼らを導き入れる者とし、主の会衆を牧者のように羊のようになさしてください。八 主はモーセに言われた、九「神の霊のやどっているヌンの子ヨシユアを選び、あなたの手をその上におき、一〇 彼を祭司エレアザルと全会衆の前に立たせて、彼らの前で職に任じなさい。二〇 そして彼にあなたの権威を分け与え、イスラエルの人々の全会衆を彼に従わせなさい。二 彼は祭司エレアザルの前に立ち、エレアザルは彼のためにウリムをもつて、主の前に判断を求めなければならない。ヨシユアとイスラエルの人々の全会衆とはエレアザルの言葉に従っていで、エレアザルの言葉に従ってはならなければならない。三 ところでモーセは主が命じられたようにし、ヨシユアを選んで、祭司エレアザルと全会衆の前に立たせ、三 彼の上に手をおき、主がモーセによって語られたとおりに彼を任命した。」

第二十八章 一 主はモーセに言われた、二「イスラエルの人々に命じて言いなさい、『あなたがたは香ばしいかおりとしてわたしにささげる火祭、すなわち、わたしの



供え物、わたしの食物を定め、時にわたしにささげることを怠ってはならない。三また彼らに言いなさい、『あなたが主にささぐべき火祭はこれである。すなわち一歳の雄の全き小羊二頭を毎日ささげて常燔祭としなければならぬ。四すなわち一頭の小羊を朝にささげ、一頭の小羊を夕にささげなければならぬ。五また麦粉一エバの十分の一に、砕いて取った油一ヒンの四分の一を混ぜて素祭としなければならぬ。六これはシナイ山で定められた常燔祭であつて、主に香ばしいかおりとしてささげる火祭である。七またその灌祭は小羊一頭について一ヒンの四分の一をささげなければならぬ。すなわち聖所において主のために濃い酒をそいで灌祭としなければならぬ。八夕には他の一頭の小羊をささげなければならぬ。その素祭と灌祭とは朝のものと同じようにし、その小羊を火祭としてささげ、主に香ばしいかおりとしなければならぬ。』

九また安息日には一歳の雄の全き小羊二頭と、麦粉一エバの十分の二に油を混ぜた素祭と、その灌祭とをささげなければならぬ。一〇これは安息日ごとの燔祭であつて、常燔祭とその灌祭とに加えるべきものである。

二またあなたがたは月々の第一日に燔祭を主にささげなければならぬ。すなわち若い雄牛二頭、雄羊一頭、一歳の雄の全き小羊七頭をささげ、三雄牛一頭には麦粉一エバの十分の三に油を混ぜたものを素祭とし、雄羊一

頭には麦粉一エバの十分の二に油を混ぜたものを素祭とし、三小羊一頭には麦粉十分の一に油を混ぜたものを素祭とし、これを香ばしいかおりの燔祭として主のために火祭としなければならぬ。四またその灌祭は雄牛一頭についてぶどう酒一ヒンの二分の一、雄羊一頭について一ヒンの三分の一、小羊一頭について一ヒンの四分の一をささげなければならぬ。これは年の月々を通じて、新月ごとにささぐべき燔祭である。五また常燔祭とその灌祭とのほかに、雄やぎ一頭を罪祭として主にささげなければならぬ。

一六正月の十四日は主の過越の祭である。一七またその月の十五日は祭日としなければならぬ。七日のあいだ種入れぬパンを食べなければならぬ。一八その初めの日には聖会を開かなければならぬ。なんの労役をもしてはならない。一九あなたがたは火祭として主に燔祭をささげなければならぬ。すなわち若い雄牛二頭、雄羊一頭、一歳の雄の小羊七頭をささげなければならぬ。これらはみな全きものでなければならぬ。二〇その素祭には油を混ぜた麦粉をささげなければならぬ。すなわち雄牛一頭につき麦粉一エバの十分の三、雄羊一頭につき十分の二をささげ、三また七頭の雄牛にはその一頭ごとに十分の一をささげなければならぬ。三三また雄やぎ一頭を罪祭としてささげ、あなたがたのために罪のあがないをしなければならぬ。三三あなたがたは朝にささげる常燔

祭の燔祭のほかにも、これらをささげなければならぬ。  
 二四 このようにあなたがたは七日のあいだ毎日、火祭の食物をささげて、主に香ばしいかおりとしなければならぬ。これは常燔祭とその灌祭とのほかにささぐべきものである。二五 そして第七日に、あなたがたは聖会を開かなければならない。なんの労役をもしてはならない。

二六 あなたがたは七週の祭、すなわち新しい素祭を主にささげる初穂の日にも聖会を開かなければならない。なんの労役をもしてはならない。二七 あなたがたは燔祭をささげて、主に香ばしいかおりとしなければならぬ。すなわち若い雄牛二頭、雄羊一頭、一歳の雄の小羊七頭をささげなければならぬ。二八 その素祭には油を混ぜた麦粉をささげなければならぬ。すなわち雄牛一頭につき一エバの十分の三、雄羊一頭につき十分の二をささげ、二九 また七頭の小羊には一頭ごとに十分の一をささげなければならぬ。三〇 また雄やぎ一頭をささげてあなたがたのために罪のあがないをしなければならぬ。三一 あなたがたは常燔祭とその素祭とその灌祭とのほかに、これらをささげなければならぬ。これらはみな、全きものでなければならぬ。

第二十九章 七月には、その月の第一日に聖会を開かなければならぬ。なんの労役をもしてはならない。これはあなたがたがラッパを吹く日である。二 あなたがたは燔祭をささげて、主に香ばしいかおりとしなければならぬ。すなわち若い雄牛一頭、雄羊一頭、一歳の雄の全き小羊七頭をささげなければならぬ。三 その素祭には油を混ぜた麦粉をささげなければならぬ。すなわち雄牛一頭について一エバの十分の三、雄羊一頭について十分の二をささげ、四 また七頭の小羊には一頭ごとに十分の一をささげなければならぬ。五 また雄やぎ一頭を罪祭としてささげ、あなたがたのために罪のあがないをしなければならぬ。六 これは新月の燔祭とその素祭、常燔祭とその素祭、および灌祭のほかのものであつて、これらのものの定めにしたがい、香ばしいかおりとして、主に火祭としなければならぬ。  
 七 またその七月の十日に聖会を開き、かつあなたがたの身を悩まさなければならぬ。なんの仕事もしてはならない。八 あなたがたは主に燔祭をささげて、香ばしいかおりとしなければならぬ。すなわち若い雄牛一頭、雄羊一頭、一歳の雄の小羊七頭をささげなければならぬ。九 その素祭には油を混ぜた麦粉をささげなければならぬ。すなわち雄牛一頭につき一エバの十分の三、雄羊一頭につき十分の二をささげ、一〇 また七頭の小羊には一頭ごとに十分の一をささげなければならぬ。一一 また雄やぎ一頭を罪祭としてささげなければならぬ。これらは贖罪の罪祭と常燔祭とその素祭、および灌祭のほかのものである。

三 七月の十五日に聖会を開かなければならない。なんの労役もしてはならない。七日のあいだ主のために祭をしなければならぬ。二 あなたがたは燔祭をささげて、主に香ばしいかおりの火祭としなければならぬ。すなわち若い雄牛十三頭、雄羊二頭、一歳の雄の小羊十四頭をささげなければならぬ。これらはみな全きものでなければならぬ。三 その素祭には油を混ぜた麦粉をささげなければならぬ。すなわち十三頭の雄牛には一頭ごとに十分の三、その二頭の雄羊には一頭ごとに十分の二をささげ、二五その十四頭の小羊には一頭ごとに十分の一をささげなければならぬ。四 また雄やぎ一頭を罪祭としてささげなければならぬ。これらは常燔祭とその素祭および灌祭のほかのものである。

二七 第二日には若い雄牛十二頭、雄羊二頭、一歳の雄の全き小羊十四頭をささげなければならぬ。二八 その雄牛と雄羊と小羊とのための素祭と灌祭とはその数にしたがって、定めのようにささげなければならぬ。二九 また雄やぎ一頭を罪祭としてささげなければならぬ。これらは常燔祭とその素祭および灌祭のほかのものである。三〇 第三日には雄牛十一頭、雄羊二頭、一歳の雄の全き小羊十四頭をささげなければならぬ。三一 その雄牛と雄羊と小羊とのための素祭と灌祭とは、その数にしたがって定めのようにささげなければならぬ。三二 また雄やぎ一頭を罪祭としてささげなければならぬ。これらは常

燔祭とその素祭および灌祭のほかのものである。

三三 第四日には雄牛十頭、雄羊二頭、一歳の雄の全き小羊十四頭をささげなければならぬ。三四 その雄牛と雄羊と小羊とのための素祭と灌祭とは、その数にしたがって定めのようにささげなければならぬ。三五 また雄やぎ一頭を罪祭としてささげなければならぬ。これらは常燔祭とその素祭および灌祭のほかのものである。

三六 第五日には雄牛九頭、雄羊二頭、一歳の雄の全き小羊十四頭をささげなければならぬ。三七 その雄牛と雄羊と小羊とのための素祭と灌祭とは、その数にしたがって定めのようにささげなければならぬ。三八 また雄やぎ一頭を罪祭としてささげなければならぬ。これらは常燔祭とその素祭および灌祭のほかのものである。

三九 第六日には雄牛八頭、雄羊二頭、一歳の雄の全き小羊十四頭をささげなければならぬ。四〇 その雄牛と雄羊と小羊とのための素祭と灌祭とは、その数にしたがって定めのようにささげなければならぬ。四一 また雄やぎ一頭を罪祭としてささげなければならぬ。これらは常燔祭とその素祭および灌祭のほかのものである。

四二 第七日には雄牛七頭、雄羊二頭、一歳の雄の全き小羊十四頭をささげなければならぬ。四三 その雄牛と雄羊と小羊とのための素祭と灌祭とは、その数にしたがって定めのようにささげなければならぬ。四四 また雄やぎ一頭を罪祭としてささげなければならぬ。これらは常燔



祭とその素祭および灌祭のほかのものである。

三八 第八日にはまた集会を開かなければならない。なんの労役をもしてはならない。三九 あなたがたは燔祭をささげて主に香ばしいかおりの火祭としなければならぬ。すなわち雄牛一頭、雄羊一頭、一歳の雄の全き小羊七頭をささげなければならぬ。四〇 その雄牛と雄羊と小羊のための素祭と灌祭とは、その数にしたがって定めのようにささげなければならぬ。四一 また雄やぎ一頭を罪祭としてささげなければならぬ。これらは常燔祭とその素祭および灌祭のほかのものである。

四二 あなたがたは定め祭の時に、これらのものを主にささげなければならぬ。四三 これらはあなたがたの誓願、または自発の供え物としてささげる燔祭、素祭、灌祭および酬恩祭のほかのものである。

四四 モーセは主が命じられた事をことごとくイスラエルの人々に告げた。

第三〇章 モーセはイスラエルの人々の部族の

かしらたちに言った、「これは主が命じられた事である。

四六 もし人が主に誓願をかけ、またはその身に物断ちをし

ようと誓いをするならば、その言葉を破ってはならない。

四七 口で言ったとおりにすべて行わなければならぬ。四八

もし女がまだ若く、父の家にいて、主に誓願をかけ、

またはその身に物断ちをしようとする時、四九 父が彼女の

誓願、または彼女の身に断った物断ちのことを聞いて、

彼女に何も言わないならば、彼女はすべて誓願を行い、

またその身に断った物断ちをすべて守らなければならぬ。

五〇 しかし、彼女の父がそれを聞いた日に、それを承

認しない時は、彼女は其の誓願、またはその身に断った

物断ちをすべてやめることができる。父が承認しないの

であるから、主は彼女をゆるされるであろう。六一 またも

し夫のある身で、みずから誓願をかけ、またはその身に

物断ちをしようとして、軽々しく口で言った場合、七二 夫がそ

れを聞き、それを聞いた日に彼女に何も言わないならば、

彼女は其の誓願を行い、その身に断った物断ちを守らな

ければならぬ。七三 しかし、もし夫がそれを聞いた日に、

それを承認しないならば、夫はその女がかけた誓願、ま

たはその身に物断ちをしようとして、軽々しく口で言ったこ

とをやめさせることができる。主はその女をゆるされる

であろう。七四 しかし、寡婦あるいは離縁された女の誓願、

すべてその身に断った物断ちは、それを守らなければな

らない。七五 もし女が夫の家で誓願をかけ、またはその身

に物断ちをしようとして誓った時、七六 夫がそれを聞いて、彼

女に何も言わず、またそれに反対しないならば、その誓

願はすべて行わなければならぬ。またその身に断った

物断ちはすべて守らなければならぬ。七七 しかし、もし

夫がそれを聞いた日にそれを認めないならば、彼女の誓

願、または身の物断ちについて、彼女が口で言った事は、

すべてやめることができる。夫がそれを認めなかったの

だから、主はその女をゆるされるであらう。二三すべての誓願およびすべてその身を悩ます物断ちの誓約は、夫がそれを守らせることができ、または夫がそれをやめさせることができる。二四もし夫が彼女に何も言わずに日を送るならば、彼は妻がした誓願、または物断ちをすべて認めたのである。彼はそれを聞いた日に妻に何も言わなかったのだから、それを認めたのである。二五しかし、もし夫がそれを聞き、あとになって、それを認めないならば、彼は妻の罪を負わなければならない。

二六これらは主がモーセに命じられた定めであつて、夫と妻との間、および父とまだ若くて父の家にいる娘との間に関するものである。

第三章 一 さて主はモーセに言われた、二「ミデアンびとにイスラエルの人々のあだを報いなさい。その後、あなたはあなたの民に加えられるであらう。三モーセは民に言った、「あなたがたのうちから人を選んで戦いのために武装させ、ミデアンびとを攻めて、主のためミデアンびとに復讐しなさい。四すなわちイスラエルのすべての部族から、部族ごとに千人ずつを戦いに送り出さなければならぬ」。五そこでイスラエルの部族のうちから部族ごとに千人ずつを選び、一万二千人を得て、戦いのために武装させた。六モーセは各部族から千人ずつを戦いにつかわし、また祭司エレアザルの子ピネハスに、聖なる器と吹き鳴らすラッパとを執らせて、共に戦いに

つかわした。七彼らは主がモーセに命じられたようにミデアンびとと戦つて、その男子をみな殺した。八その殺した者のほかにまたミデアンの王五人を殺した。その名はエビ、レケム、ツル、フル、レバである。またベオルの子バラムをも、つるぎにかけて殺した。九またイスラエルの人々はミデアンの女たちとその子供たちを捕虜にし、その家畜と、羊の群れと、貨財とをことごとく奪い取り、一〇そのすまいのある町々と、その部落とを、ことごとく火で焼いた。二こうして彼らはすべて奪ったものと、かすめたものとは人をも家畜をも取り、三その生けどった者と、かすめたものと、奪ったものとを携えて、エリコに近いヨルダンのほとりのモアブの平野の宿営におるモーセと祭司エレアザルとイスラエルの人々の会衆のもとへもどつてきた。

三ときにモーセと祭司エレアザルと会衆のつかさたちはみな宿営の外に出て迎えたが、四モーセは軍勢の将たち、すなわち戦場から帰ってきた千人の長たちと、百人の長たちに対して怒った。五モーセは彼らに言った、「あなたがたは女たちをみな生かしておいたのか。六彼らはバラムのはかりごとによつて、イスラエルの人々に、ペオルのことで主に罪を犯させ、ついに主の会衆のうちに疫病を起すに至った。七それで今、この子供たちのうちの男の子をみな殺し、また男と寝て、男を知った女をみな殺しなさい。八ただし、まだ男と寝ず、男を知らない

娘はすべてあなたがたのために生かしておきなさい。  
 一〇そしてあなたがたは七日のあいだ宿営の外にとどまりなさい。あなたがたのうちすべて人を殺した者、およびすべて殺された者に触れた者は、あなたがた自身も、あなたがたの捕虜も共に、三日目と七日目とに身を清めなければならぬ。二〇またすべての衣服と、すべての皮の器と、すべてやぎの毛で作ったものと、すべての木の器とを清めなければならぬ」。

三祭司エレアザルは戦いに出たいくさびとたちに言った、「これは主がモーセに命じられた律法の定めである。三金、銀、青銅、鉄、すず、鉛など、二三すべて火に耐える物は火の中を通さなければならぬ。そうすれば清くなるであろう。なおその上、汚れを清める水で、清めなければならぬ。しかし、すべて火に耐えないものは水の中を通さなければならぬ。二四あなたがたは七日目に衣服を洗わなければならない。そして清くなり、その後宿営にはいることができる」。

二五主はモーセに言われた、二六「あなたと祭司エレアザルおよび会衆の氏族のかしらたちは、その生けごつた人と家畜の獲物の総数を調べ、二七その獲物を戦いに出た勇士と、全会衆とに折半しなさい。二八そして戦いに出たいくさびとに、人または牛、またはろば、または羊を、おのおの五百ごとに一つを取り、みつぎとして主にささげさせなさい。二九すなわち彼らが受ける半分のなかから、

それを取り、主にささげる物として祭司エレアザルに渡しなさい。三〇またイスラエルの人々が受ける半分のなかから、その獲た人または牛、またはろば、または羊などの家畜を、おのおの五十ごとに一つを取り、主の幕屋の務をするレビびとに与えなさい。三一モーセと祭司エレアザルとは主がモーセに命じられたとおりに行った。

三二そこでその獲物、すなわち、いくさびとたちが奪い取ったものの残りは羊六十七万五千、三三牛七万二千、三四ろば六万一千、三五人三万二千、これはみな男と寝ず、男を知らない女であった。三六そしてその半分、すなわち戦いに出た者の分は羊三十三万七千五百、三七主にみつぎとした羊は六百七十五。三八牛は三万六千、そのうちから主にみつぎとしたものは七十二。三九ろばは三万五百、そのうちから主にみつぎとしたものは六十一。四〇人は一万六千、そのうちから主にみつぎとしたものは三十二人であった。四一モーセはそのみつぎを主にささげる物として祭司エレアザルに渡した。主がモーセに命じられたとおりである。

四二モーセが戦いに出た人々とは別にイスラエルの人々に与えた半分、四三すなわち会衆の受けた半分は羊三十三万七千五百、四四牛三万六千、四五ろば三万五百、四六人一万六千であつて、四七モーセはイスラエルの人々の受けた半分のなかから、人および獣をおのおの五十ごとに一つを取つて、主の幕屋の務をするレビびとに与えた。主が



モーセに命じられたとおりである。

四八 時に軍勢の将であつたものども、すなわち千人の長たちと百人の長たちとがモーセのところに来て、四九 モーセに言った、「しもべらは、指揮下のいくさびとを数えましたが、われわれのうち、ひとりも欠けた者はありませんでした。五〇 それで、われわれは、おのおの手に入れた金の飾り物、すなわち腕飾り、腕輪、指輪、耳輪、首飾りなどを主に携えてきて供え物とし、主の前にわれわれの命のあがないをしようと思ひます」。五一 モーセと祭司エレアザルとは、彼らから細工を施した金の飾り物を受け取った。五二 千人の長たちと百人の長たちが、主にさげものとした金は合わせて一万六千七百五十シケル。五三 いくさびとは、おのおの自分のぶんどり物を獲た。五四 モーセと祭司エレアザルとは、千人の長たちと百人の長たちとから、その金を受け取り、それを携えて会見の幕屋に入り、主の前に置いてイスラエルの人々のために記念とした。

### 第三章

二 章 ルベンの子孫とガドの子孫とは非常に多くの家畜の群れを持っていた。彼らがヤゼルの地と、ギレアデの地とを見ると、そこは家畜を飼うのに適していたので、ニガドの子孫とルベンの子孫とがきて、モーセと、祭司エレアザルと、会衆のつかさたちとに言った、三 アタロテ、デボン、ヤゼル、ニムラ、ヘシボン、エレアレ、シバム、ネボ、ベオン、四 すなわち主がイスラエ

ルの会衆の前に撃ち滅ぼされた国は、家畜を飼うのに適した地ですが、しもべらは家畜を持っています。五 彼らはまた言った、「それでもし、あなたの恵みを得られますなら、どうぞこの地をしもべらの領地にして、われわれにヨルダンを渡らせないでください」。

六 モーセはガドの子孫とルベンの子孫とに言った、「あなたがたは兄弟が戦いに行くのに、ここにすわっているというのか。七 どうしてあなたがたはイスラエルの人の心をくじいて、主が彼らに与えられる地に渡ることができないようにするのか。八 あなたがたの先祖も、わたくしがカデシ・バルネアから、その地を見るためにつかわした時に、同じようなことをした。九 すなわち彼らはエシコルの谷に行つて、その地を見たとき、イスラエルの人々の心をくじいて、主が与えられる地に行くことができないようにした。一〇 そこでその時、主は怒りを発し、誓つて言われた、一一 エジプトから出てきた人々で二十歳以上の者はひとりもわたしがアブラハム、イサク、ヤコブに誓つた地を見ることはできない。彼らはわたしに従わなかったからである。一二 ただケニズびとエフンネの子カレブとヌンの子ヨシユアとはそうではない。このふたりは全く主に従つたからである。一三 主はこのようにイスラエルにむかつて怒りを発し、彼らを四十年のあいだ荒野にさまよわされたので、主の前に悪を行つたその世代の人々は、ついにみな滅びた。一四 あなたがたはそ

の父に代つて立つた罪びとのやからであつて、主のイスラエルに對する激しい怒りをさらに増そうとしている。  
 二五 あなたがたがもしそむいて主に従わなければ、主はまたこの民を荒野にすておかれるであらう。そうすればあなたがたはこの民をことごとく滅ぼすに至るであらう。

二六 彼らはモーセのところへ進み寄つて言つた、「われわれはこの所に、群れのために羊のおりを建て、また子供たちのために町々を建てようと思ひます。しかし、われわれは武装してイスラエルの人々の前に進み、彼らをその所へ導いて行きましょう。ただわれわれの子供たちは、この地の住民の害をのがれるため、堅固な町々に住ませておかねばなりません。われわれはイスラエルの人々が、おのおのその嗣業を受けるまでは、家に帰りません。一九またわれわれはヨルダンのかたで彼らとともに嗣業を受けません。われわれはヨルダンのこなた、すなわち東の方で嗣業を受けるからです。二〇モーセは彼らに言つた、「もし、あなたがたがそのようにし、みな武装して主の前行つて戦ひ、二一みな武装して主の前行つてヨルダン川を渡り、主がその敵を自分の前から追い払われて、二三この国が主の前に征服されて後、歸ってくるならば、あなたがたは主の前にも、イスラエルの前にも、とがめはないであらう。そしてこの地は主の前にあなたがたの所有となるであらう。二四しかし、そ

うしないならば、あなたがたは主にむかつて罪を犯した者となり、その罪は必ず身に及ぶことを知らなければならぬ。  
 二四 あなたがたは子供たちのために町々を建て、羊のために、おりを建てなさい。しかし、あなたがたは約束したことは行わなければならぬ。二五 ガドの子孫とルベンの子孫とは、モーセに言つた、「しもべらはあなたの命じられたとおりにいたします。二六 われわれの子供たちと妻と羊と、すべての家畜とは、このギレアデの町に残します。二七 しかし、しもべらはみな武装して、あなたの言われるとおりに、主の前に渡つて行つて戦ひます。」

二八 モーセは彼らのことについて、祭司エレアザルと、メンの子ヨシユアと、イスラエルの部族のうちの氏族のかしらたちとに命じた。二九 そしてモーセは彼らに言つた、「ガドの子孫と、ルベンの子孫とが、おのおの武装してあなたがたと一緒にヨルダンを渡り、主の前に戦つて、その地をあなたがたが征服するならば、あなたがたは彼らにギレアデの地を領地として与えなければならぬ。三〇 しかし、もし彼らが武装してあなたがたと一緒に渡つて行かないならば、彼らはカナンの地でああなたがたのうちに領地を獲なければならぬ。三一 ガドの子孫と、ルベンの子孫とは答えて言つた、「しもべらは主が言われたとおりにいたします。三二 われわれは武装して、主の前にカナンの地へ渡つて行きますが、ヨルダンのこ

なたで、われわれの嗣業をもつことにします。

三そこでモーセはガドの子孫と、ルベンの子孫と、ヨセフの子マナセの部族の半ばとに、アモリびとの王シホンの国と、バシヤンの王オグの国とを与えた。すなわち、その国およびその領内の町々とその町々の周囲の地とを与えた。四こうしてガドの子孫は、デボン、アタロテ、アロエル、三五アテロテ・シヨパン、ヤゼル、ヨグベハ、三六ベテニムラ、ベテハランなどの堅固な町々を建て、羊のおりを建てた。三七またルベンの子孫は、ヘシボン、エレアレ、キリヤタイム、三八および後に名を改めたネボと、バアル・メオンの町を建て、またシブマの町を建てた。彼らは建てた町々に新しい名を与えた。三九またマナセの子マキルの子孫はギレアデに行つて、そこを取り、その住民アモリびとを追い払つたので、四〇モーセはギレアデをマナセの子マキルに与えてそこに住まわせた。四一またマナセの子ヤイルは行つて村々を取り、それをハオテヤイルと名づけた。四二またノバは行つてケナテとその村々を取り、自分の名にしたがつて、それをノバと名づけた。

第三三章 イスラエルの人々が、モーセとアロンとに導かれ、その部隊に従つて、エジプトの国を出てから経た旅路は次のとおりである。二モーセは主の命により、その旅路にしたがつて宿駅を書きとめた。その宿駅にしたがえば旅路は次のとおりである。三彼らは正月の十五日にラメセスを出立した。すなわち過越の翌日イ

スラエルの人々は、すべてのエジプトびとの目の前を意気揚々と出立した。四その時エジプトびとは、主に撃ち殺されたすべてのういごを葬っていた。主はまた彼らの神々にも罰を加えられた。

五こうしてイスラエルの人々はラメセスを出立してスコテに宿営し、六スコテを出立して荒野の端にあるエタムに宿営し、七エタムを出立してバアル・ゼボンの前にあつてハヒロテを出立して、海をなかとおつて荒野に入り、エタムの荒野を三日路ほど行つて、メラに宿営し、九メラを出立し、エリムに行つて宿営した。エリムには水の泉十二と、なつめやし七十本とがあつた。一〇エリムを出立して紅海のほとりに宿営し、二紅海を出立してシンの荒野に宿営し、三シンの荒野を出立してドフカに宿営し、四ドフカを出立してアルシに宿営し、五アルシを出立してレビデムに宿営した。そこには民の飲む水がなかつた。一五レビデムを出立してシナイの荒野に宿営し、一六シナイの荒野を出立してキプロテ・ハッタワに宿営し、一七キプロテ・ハッタワを出立してハゼロテに宿営し、一八ハゼロテを出立してリテマに宿営し、一九リテマを出立してリンモン・パレッツに宿営し、二〇リンモン・パレッツを出立してリブナに宿営し、二一リブナを出立してリツサに宿営し、二二リツサを出立してケヘラタに宿営し、二三ケヘラタを出立してシャペル山に宿営し、二四シャペル山を出



立してハラダに宿營し、二五ハラダを出立してマケロテに宿營し、二六マケロテを出立してタハテに宿營し、二七タハテを出立してテラに宿營し、二八テラを出立してミテカに宿營し、二九ミテカを出立してハシモナに宿營し、三〇ハシモナを出立してモセラに宿營し、三一モセラを出立してベネヤカンに宿營し、三二ベネヤカンを出立してホル・ハギデガデに宿營し、三三ホル・ハギデガデを出立してヨテバタに宿營し、三四ヨテバタを出立してアプロナに宿營し、三五アプロナを出立してエジオン・ゲベルに宿營し、三六エジオン・ゲベルを出立してチンの荒野すなわちカデシに宿營し、三七カデシを出立してエドムの国の端にあるホル山に宿營した。

三八イスラエルの人々がエジプトの国を出て四十年目の五月一日に、祭司アロンは主の命によりホル山に登つて、その所で死んだ。三九アロンはホル山で死んだとき百二十三歳であつた。

四〇カナンの地のネゲブに住んでいたカナンびとアラデの王は、イスラエルの人々の来るのを聞いた。

四一 ついで、ホル山を出立してザルモナに宿營し、四二ザルモナを出立してブノンに宿營し、四三ブノンを出立してオボテに宿營し、四四オボテを出立してモアブの境にあるイエ・アバリムに宿營し、四五イエ・アバリムを出立してデボン・ガドに宿營し、四六デボン・ガドを出立してアルモン・デブラタイムに宿營し、四七アルモン・デブラタイム

を出立してネボの前にあるアバリムの山に宿營し、四八アバリムの山を出立してエリコに近いヨルダンのほとりのモアブの平野に宿營した。四九すなわちヨルダンのほとりのモアブの平野で、ベテエシモテとアベル・シツテムとの間に宿營した。

五〇エリコに近いヨルダンのほとりのモアブの平野で、主はモーセに言われた、五一「イスラエルの人々に言いなさい。あなたがたがヨルダンを渡つてカナンの地にはいるときは、五二その地の住民をことごとくあなたがたの前から追い払い、すべての石像をこぼち、すべての銅像をこぼち、すべての高き所を破壊しなければならぬ。五三またあなたがたはその地の民を追い払って、そこに住まなければならぬ。わたしがその地をあなたがたの所有として与えたからである。五四あなたがたは、おのの氏族ごとにくじを引き、その地を分けて嗣業としなければならぬ。大きい部族には多くの嗣業を与え、小さい部族には少しの嗣業を与えなければならぬ。そのくじの當つた所がその所有となるであらう。あなたがたは父祖の部族にしたがつて、それを継がなければならぬ。五五しかし、その地の住民をあなたがたの前から追い払わなければならない、その残して置いた者はあなたがたの目にとげとなり、あなたがたの脇にいらなくなり、あなたがたの住む国において、あなたがたを悩ますであらう。五六また、わたしは彼らにしようと思つたとおり、あなたが

たにするであらう」。

### 第三章 第四章

「主はモーセに言われた、<sup>一</sup>「イスラエルの人々に命じて言いなさい。あなたがたがカナンの地にはいるとき、あなたがたの嗣業となるべき地はカナンの地で、その全域は次のとおりである。<sup>二</sup>南の方はエドムに接するチンの荒野に始まり、南の境は、東は塩の海の端に始まる。<sup>三</sup>その境はアクラビムの坂の南を巡ってチンに向かい、カデシ・バルネアの南に至り、<sup>四</sup>ハザル・アダルに進み、アズモンに及ぶ。<sup>五</sup>その境はまたアズモンから転じてエジプトの川に至り、海に及んで尽きる。<sup>六</sup>西の境はおおうみとその沿岸で、これがあなたがたの西の境である。

<sup>七</sup>あなたがたの北の境は次のとおりである。すなわちおおうみからホル山まで線を引き、<sup>八</sup>ホル山からハマテの入口まで線を引き、その境をゼダデに至らせ、<sup>九</sup>またその境はジフロンに進み、ハザル・エノンに至って尽きる。これがあなたがたの北の境である。

<sup>一〇</sup>あなたがたの東の境は、ハザル・エノンからシバムまで線を引き、<sup>一一</sup>またその境はアインの東の方で、シバムからリブラに下り、<sup>一二</sup>またその境は下ってキンネレテの海の東の斜面に至り、<sup>一三</sup>またその境はヨルダンに下り、塩の海に至って尽きる。あなたがたの国の周囲の境は以上のとおりである」。

<sup>一四</sup>モーセはイスラエルの人々に命じて言った、「これは

あなたがたが、くじによつて継ぐべき地である。主はこれを九つの部族と半部族とに与えよと命じられた。<sup>一五</sup>それはルベンの子孫の部族とガドの子孫の部族とが共に父祖の家にしたがつて、すでにその嗣業を受け、またマナセの半部族もその嗣業を受けていたからである。<sup>一六</sup>この二つの部族と半部族とはエリコに近いヨルダンのかなた、すなわち東の方、日の出る方で、その嗣業を受けた」。

<sup>一七</sup>主はまたモーセに言われた、<sup>一八</sup>「あなたがたに、嗣業として地を分け与える人々の名は次のとおりである。すなわち祭司エレアザルと、ヌンの子ヨシユアとである。<sup>一九</sup>あなたがたはまた、おのおの部族から、つかさひとりずつを選んで、地を分け与えさせなければならぬ。<sup>二〇</sup>その人々の名は次のとおりである。すなわちエダの部族ではエフネの子カレブ、<sup>二一</sup>シメオンの子孫の部族ではアミホデの子サムエル、<sup>二二</sup>ベニヤミンの部族ではキスロンの子エリダデ、<sup>二三</sup>ダンの子孫の部族ではヨグリの子つかさブッキ、<sup>二四</sup>ヨセフの子孫、すなわちマナセの部族ではエボデの子つかさハニエル、<sup>二五</sup>エフライムの子孫の部族ではシフタンの子つかさケムエル、<sup>二六</sup>ゼブルンの子孫の部族ではバルナクの子つかさエリザパン、<sup>二七</sup>イッサカルの子孫の部族ではアザンの子つかさバルテエル、<sup>二八</sup>アセルの子孫の部族ではシロミの子つかさアヒウデ、<sup>二九</sup>ナフタリの子孫の部族では、アミホデの子つかさバダヘル。<sup>三〇</sup>カナンの地でイスラエルの人々に嗣業を分け与

えることを主が命じられた人々は以上のとおりである」。

### 第三章

五章 エリコに近いヨルダンのほとりのモアブの平野で、主はモーセに言われた、「イスラエルの人々に命じて、その獲た嗣業のうちから、レビびとに住むべき町々を与えさせなさい。また、あなたがたは、その町々の周囲の放牧地をレビびとに与えなければならぬ。三その町々は彼らの住む所、その放牧地は彼らの家畜と群れ、およびすべての獣のためである。四あなたがたがレビびとに与える町々の放牧地は、町の石がきから一千キュビトの周囲としなければならぬ。五あなたがたは町の外で東側に二千キュビト、南側に二千キュビト、西側に二千キュビト、北側に二千キュビトを計り、町はその中央にしなければならぬ。彼らの町の放牧地はどのようにしなければならぬ。六あなたがたがレビびとに与える町々は六つで、のがれの町とし、人を殺した者がのがれる所としなければならぬ。なおこのほかに四十二の町を与えなければならぬ。七すなわちあなたがたがたがレビびとに与える町は合わせて四十八で、これをその放牧地と共に与えなければならぬ。八あなたがたがイスラエルの人々の所有のうちからレビびとに町々を与えるには、大きい部族からは多く取り、小さい部族からは少なく取り、おのおの受ける嗣業にしたがって、その町々をレビびとに与えなければならぬ」。

九主はモーセに言われた、「ヨイスラエルの人々に言い

なさい。あなたがたがヨルダンを渡ってカナンの中にいるときは、二あなたがたのために町を選んで、のがれの町とし、あやまって人を殺した者を、そこにのがれさせなければならぬ。三これはあなたがたが復讐する者を避けてのがれる町であって、人を殺した者が会衆の前に立って、さばきを受けないうちに、殺されることのないためである。四あなたがたが与える町々のうち、六つをのがれの町としなければならぬ。五すなわちヨルダンのかなたで三つの町を与え、カナンの地で三つの町を与えて、のがれの町としなければならぬ。六これらの六つの町は、イスラエルの人々と、他国の人および寄留者のために、のがれの場所としなければならぬ。すべてあやまって人を殺した者が、そこにのがれるためである。

七もし人が鉄の器で、人を打って死なせたならば、その人は故殺人である。故殺人は必ず殺されなければならぬ。八もし人がまたもし人を殺せるほどの石を取って、人を打って死なせたならば、その人は故殺人である。故殺人は必ず殺されなければならぬ。九あるいは人を殺せるほどの木の器を取って、人を打って死なせたならば、その人は故殺人である。故殺人は必ず殺されなければならぬ。一〇血の復讐をする者は、自分でその故殺人を殺すことができる。すなわち彼に出会うとき、彼を殺すことができる。二〇またもし恨みのために人を突き、あるいは



故意に人に物を投げつけて死なせ、<sup>二</sup>あるいは恨みによつて手で人を打つて死なせたならば、その打った者は必ず殺されなければならない。彼は故殺人だからである。血の復讐をする者は、その故殺人に出会うとき殺すことができる。

<sup>三</sup>しかし、もし恨みもないのに思わず人を突き、または、なにごころなく人に物を投げつけ、<sup>四</sup>あるいは人いるのを見ずに、人を殺せるほどの石を投げつけて死なせた場合、その人がその敵でもなく、また害を加えようとしたのでもない時は、<sup>五</sup>会衆はこれらのおきてによつて、その人を殺した者と、血の復讐をする者との間をさばかなければならない。<sup>六</sup>すなわち会衆はその人を殺した者を血の復讐をする者の手から救い出して、逃げて行ったのがれの町に返さなければならない。その者は聖なる油を注がれた大祭司の死ぬまで、そこにいなければならない。<sup>七</sup>しかし、もし人を殺した者が、その逃げて行ったのがれの町の境を出た場合、<sup>八</sup>血の復讐をする者は、のがれの町の境の外で、これに出会い、血の復讐をする者が、その人を殺した者を殺しても、彼には血を流した罪はない。<sup>九</sup>彼は大祭司の死ぬまで、そののがれの町におるべきものだからである。大祭司の死んだ後は、人を殺した者は自分の所有の地にかえることができる。

<sup>一〇</sup>これらのことはすべてあなたがたの住む所で、代々あなたがたのためのおきての定めとしなければならない。

<sup>一一</sup>人を殺した者、すなわち故殺人はすべて証人の証言にしたがって殺されなければならない。しかし、だれもただひとりの証言によつて殺されることはない。<sup>一二</sup>あなたがたは死に当る罪を犯した故殺人の命のあがないしるを取つてはならない。彼は必ず殺されなければならない。<sup>一三</sup>また、のがれの町にのがれた者のために、あがないしるを取つて大祭司の死ぬ前に彼を自分の地に帰り住まわせてはならない。<sup>一四</sup>あなたがたはそのおる所の地を汚してはならない。流血は地を汚すからである。地の上に流された血は、それを流した者の血によらなければならない。がなうことができない。<sup>一五</sup>あなたがたは、その住む所の地、すなわちわたしのおる地を汚してはならない。主なるわたしがイスラエルの人々のうちに住んでゐるからである。

**第三十六章** ヨセフの子孫の氏族のうち、マナセの子マキルの子であるギレアデの子らの氏族のかしらたちが出て、モーセとイスラエルの人々のかしらであるつかさたちとの前で語つて、<sup>二</sup>言つた、「イスラエルの人々に、その嗣業の地をくじによつて与えることを主はあなたに命じられ、あなたもまた、われわれの兄弟ゼロペハデの嗣業を、その娘たちに与えるよう、主によつて命じられました。<sup>三</sup>その娘たちももし、イスラエルの人々のうちの他の部族のむすこたちにとつぐならば、彼女たちの嗣業は、われわれの父祖の嗣業のうちから取り除かれて、

そのとつぐ部族の嗣業に加えられるでしょう。こうしてそれはわれわれの嗣業の分から取り除かれるでしょう。四そしてイスラエルの人々のヨベルの年がきた時、彼女たちの嗣業は、そのとついだ部族の嗣業に加えられるでしょう。こうして彼女たちの嗣業は、われわれの父祖の部族の嗣業のうちから取り除かれるでしょう。

五モーセは主の言葉にしたがって、イスラエルの人々に命じて言った、「ヨセフの子孫の部族の言うところは正しい。六ゼロペハデの娘たちについて、主が命じられたことはこうである。すなわち『彼女たちはその心になう者にとついてもよいが、ただその父祖の部族の一族にのみ、とつがなければならない。七そうすればイスラエルの人々の嗣業は、部族から部族に移るようなことはないである。イスラエルの人々は、おのおのその父祖の部族の嗣業をかたく保つべきだからである。』ハイスラエ

の部族は、主の命じられた通りにする。十一日のサヘブの人々告げの言葉である。二ホセは、サトハ山としての前である。三ホセは、サトハ山としての前である。四ホセは、サトハ山としての前である。五ホセは、サトハ山としての前である。六ホセは、サトハ山としての前である。七ホセは、サトハ山としての前である。八ホセは、サトハ山としての前である。九ホセは、サトハ山としての前である。十ホセは、サトハ山としての前である。十一ホセは、サトハ山としての前である。十二ホセは、サトハ山としての前である。十三ホセは、サトハ山としての前である。十四ホセは、サトハ山としての前である。十五ホセは、サトハ山としての前である。十六ホセは、サトハ山としての前である。十七ホセは、サトハ山としての前である。十八ホセは、サトハ山としての前である。十九ホセは、サトハ山としての前である。二十ホセは、サトハ山としての前である。二十一ホセは、サトハ山としての前である。二十二ホセは、サトハ山としての前である。二十三ホセは、サトハ山としての前である。二十四ホセは、サトハ山としての前である。二十五ホセは、サトハ山としての前である。二十六ホセは、サトハ山としての前である。二十七ホセは、サトハ山としての前である。二十八ホセは、サトハ山としての前である。二十九ホセは、サトハ山としての前である。三十ホセは、サトハ山としての前である。三十一ホセは、サトハ山としての前である。三十二ホセは、サトハ山としての前である。三十三ホセは、サトハ山としての前である。三十四ホセは、サトハ山としての前である。三十五ホセは、サトハ山としての前である。三十六ホセは、サトハ山としての前である。三十七ホセは、サトハ山としての前である。三十八ホセは、サトハ山としての前である。三十九ホセは、サトハ山としての前である。四十ホセは、サトハ山としての前である。四十一ホセは、サトハ山としての前である。四十二ホセは、サトハ山としての前である。四十三ホセは、サトハ山としての前である。四十四ホセは、サトハ山としての前である。四十五ホセは、サトハ山としての前である。四十六ホセは、サトハ山としての前である。四十七ホセは、サトハ山としての前である。四十八ホセは、サトハ山としての前である。四十九ホセは、サトハ山としての前である。五十ホセは、サトハ山としての前である。五十一ホセは、サトハ山としての前である。五十二ホセは、サトハ山としての前である。五十三ホセは、サトハ山としての前である。五十四ホセは、サトハ山としての前である。五十五ホセは、サトハ山としての前である。五十六ホセは、サトハ山としての前である。五十七ホセは、サトハ山としての前である。五十八ホセは、サトハ山としての前である。五十九ホセは、サトハ山としての前である。六十ホセは、サトハ山としての前である。六十一ホセは、サトハ山としての前である。六十二ホセは、サトハ山としての前である。六十三ホセは、サトハ山としての前である。六十四ホセは、サトハ山としての前である。六十五ホセは、サトハ山としての前である。六十六ホセは、サトハ山としての前である。六十七ホセは、サトハ山としての前である。六十八ホセは、サトハ山としての前である。六十九ホセは、サトハ山としての前である。七十ホセは、サトハ山としての前である。七十一ホセは、サトハ山としての前である。七十二ホセは、サトハ山としての前である。七十三ホセは、サトハ山としての前である。七十四ホセは、サトハ山としての前である。七十五ホセは、サトハ山としての前である。七十六ホセは、サトハ山としての前である。七十七ホセは、サトハ山としての前である。七十八ホセは、サトハ山としての前である。七十九ホセは、サトハ山としての前である。八十ホセは、サトハ山としての前である。八十一ホセは、サトハ山としての前である。八十二ホセは、サトハ山としての前である。八十三ホセは、サトハ山としての前である。八十四ホセは、サトハ山としての前である。八十五ホセは、サトハ山としての前である。八十六ホセは、サトハ山としての前である。八十七ホセは、サトハ山としての前である。八十八ホセは、サトハ山としての前である。八十九ホセは、サトハ山としての前である。九十ホセは、サトハ山としての前である。九十一ホセは、サトハ山としての前である。九十二ホセは、サトハ山としての前である。九十三ホセは、サトハ山としての前である。九十四ホセは、サトハ山としての前である。九十五ホセは、サトハ山としての前である。九十六ホセは、サトハ山としての前である。九十七ホセは、サトハ山としての前である。九十八ホセは、サトハ山としての前である。九十九ホセは、サトハ山としての前である。百ホセは、サトハ山としての前である。

ルの人々の部族のうち、嗣業をもっている娘はみな、その父の部族に属する一族にとつがなければならない。そうすればイスラエルの人々は、おのおのその父祖の嗣業を保つことができる。九こうして嗣業は一つの部族から他の部族に移ることはなからう。イスラエルの人々の部族はおのおのその嗣業をかたく保つべきだからである。一〇そこでゼロペハデの娘たちは、主がモーセに命じられたようにした。二すなわちゼロペハデの娘たち、マアラ、テルザ、ホグラ、ミルカおよびノアは、その父の兄弟のむすこたちにとついだ。三彼女たちはヨセフの子マナセのむすこたちの一族にとついたので、その嗣業はその父の一族の属する部族にとどまった。

三これらはエリコに近いヨルダンのほとりのモアブの平野で、主がモーセによつてイスラエルの人々に命じられた命令とおきてである。

四主はモーセに命じて、五主はモーセに命じて、六主はモーセに命じて、七主はモーセに命じて、八主はモーセに命じて、九主はモーセに命じて、一〇主はモーセに命じて、一一主はモーセに命じて、一二主はモーセに命じて、一三主はモーセに命じて、一四主はモーセに命じて、一五主はモーセに命じて、一六主はモーセに命じて、一七主はモーセに命じて、一八主はモーセに命じて、一九主はモーセに命じて、二〇主はモーセに命じて、二一主はモーセに命じて、二二主はモーセに命じて、二三主はモーセに命じて、二四主はモーセに命じて、二五主はモーセに命じて、二六主はモーセに命じて、二七主はモーセに命じて、二八主はモーセに命じて、二九主はモーセに命じて、三〇主はモーセに命じて、三一主はモーセに命じて、三二主はモーセに命じて、三三主はモーセに命じて、三四主はモーセに命じて、三五主はモーセに命じて、三六主はモーセに命じて、三七主はモーセに命じて、三八主はモーセに命じて、三九主はモーセに命じて、四〇主はモーセに命じて、四一主はモーセに命じて、四二主はモーセに命じて、四三主はモーセに命じて、四四主はモーセに命じて、四五主はモーセに命じて、四六主はモーセに命じて、四七主はモーセに命じて、四八主はモーセに命じて、四九主はモーセに命じて、五〇主はモーセに命じて、五一主はモーセに命じて、五二主はモーセに命じて、五三主はモーセに命じて、五四主はモーセに命じて、五五主はモーセに命じて、五六主はモーセに命じて、五七主はモーセに命じて、五八主はモーセに命じて、五九主はモーセに命じて、六〇主はモーセに命じて、六一主はモーセに命じて、六二主はモーセに命じて、六三主はモーセに命じて、六四主はモーセに命じて、六五主はモーセに命じて、六六主はモーセに命じて、六七主はモーセに命じて、六八主はモーセに命じて、六九主はモーセに命じて、七〇主はモーセに命じて、七一主はモーセに命じて、七二主はモーセに命じて、七三主はモーセに命じて、七四主はモーセに命じて、七五主はモーセに命じて、七六主はモーセに命じて、七七主はモーセに命じて、七八主はモーセに命じて、七九主はモーセに命じて、八〇主はモーセに命じて、八一主はモーセに命じて、八二主はモーセに命じて、八三主はモーセに命じて、八四主はモーセに命じて、八五主はモーセに命じて、八六主はモーセに命じて、八七主はモーセに命じて、八八主はモーセに命じて、八九主はモーセに命じて、九〇主はモーセに命じて、九一主はモーセに命じて、九二主はモーセに命じて、九三主はモーセに命じて、九四主はモーセに命じて、九五主はモーセに命じて、九六主はモーセに命じて、九七主はモーセに命じて、九八主はモーセに命じて、九九主はモーセに命じて、百主はモーセに命じて、